

Graduate School of Kokugakuin University.

國學院大學大学院

文学研究科：神道学・宗教学研究 / 文学専攻 / 史学専攻
法学研究科：法律学専攻
経済学研究科：経済学専攻



もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

充実した学修環境と支援を用意 — 意欲ある人材に呼びかける

國學院大學は、明治15年(1882)に創設された「皇典講究所」を母体とし、同23年(1890)に国史・国文・国法を究明する教育機関として発足した「國學院」を淵源としており、令和4年(2022)には創立140周年を迎えました。大学院は、戦後間もない昭和26年(1951)に文学研究科修士課程が開設されたことにはじまり、2年後には博士課程も設置されました。その後、昭和42年(1967)には法学研究科、同43年(1968)には経済学研究科が順次開設され、令和3年(2021)には創立70周年を迎えています。現在、3研究科の下に5専攻(神道学・宗教学、文学、史学、法学、経済学)がおかれ、今日に至っています。

昨今の学問研究をめぐる環境はますます厳しさを増し、大学院を出た若手研究者がなかなか定職に就けない状況が続いています。そのようななかにあつて、本学大学院は毎年10名前後の学位(博士号)取得者を輩出しており、彼らのなかから本学の専任教員になる人も、文学部・神道文化学部を中心にかなりの数にのぼります。かくいう私も、本学大学院出身者の末席につらなるひとりです。また法学研究科では公務員コースを設置して、修了後の就職を見据えた細やかな指導をおこなっており、経済学研究科でも税理士資格の取得に向けた充実したカリキュラムを用意しています。

令和2年度(2020)からはコースワーク制を導入し、複数の教員による論文指導体制を導入しました。これによって大学院生は、自分の研究を多角的にとらえることが可能となり、より客観的・相対的な検討ができるようになったと考えます。また同年には奨学金制度の改正もおこなわれ、経済支援型と学業奨励型の二本立てになり、従来よりも手厚い支援を受けられるようになったことは特記しておくべきでしょう。さらに令和3年度からは、大学院がどのような授業を展開しているのかを学部生に知ってもらうため、文学研究科で体験授業を開催し、令和4年には経済学研究科でも体験授業をはじめました。また令和5年度からは、有職者や育児・介護従事者のために前期課程において修業年限を3年間あるいは4年間にする長期履修制度をはじめ、休学期間を半期ごとに改め、前期課程の9月修了や科目等履修生や聴講生の登録料等の軽減も実施しました。その他、海外の協定校との学术交流や留学支援なども整備し、他大学との単位互換や学位取得者に対する出版助成もおこなっています。21世紀も四半世紀を迎えようとしています。本学大学院は混沌とした社会情勢に立ち向かう、探究心・知的好奇心にあふれた意欲あるみなさんの入学を期待しています。

大学院委員長 佐藤 長門
SATO Nagato

國學院大學大学院 組織図



学位取得までのサポート

大学院受験期

大学 (学部)

入試制度

一般入試 社会人入試 外国人入試

学内推薦等

文学研究科：書類審査・口述試験にて選考
 法学研究科：先取り履修(P18)、飛び入学(P18)
 経済学研究科：2年以内の学部卒業生も出願可能



減免制度

私費外国人留学生

一定の要件を満たすことにより授業料3割減免

本学出身者

入学金および施設設備費半額(本学前期課程修了者が後期課程に進学した場合は全額免除)

大学院での学修・研究・学位修得期

博士前期課程

(標準修業年限2年)

学位授与
修士
30単位以上修得
修士論文提出……
最終試験

学修支援

T・A(ティーチング・アシスタント)……
 大学院奨学金、留学に伴う奨学金、国際交流旅費補助、
 長期履修制度(社会人等)
 科目等履修生、聴講生、特別研究生 研究誌:大学院紀要他

取得可能な資格

教員専修免許 國學院ミュージアム・アドミニストレーター
 1級考古調査士 國學院ミュージアム・キュレーター
 税理士試験一部免除(P23)

キャリアサポート

企業セミナー・模擬面接指導会など(P27)
 公務員養成コース(法学研究科) P19)
 キャリアコース(経済学研究科) P23)

【科目等履修生・聴講生】

正規入学せずに授業科目を履修することができる制度です。修得単位は、大学院入学後に修了に必要な単位として認定されます。
 また、単位の認定を必要としない場合は「大学院聴講生制度」により授業科目の聴講が可能です。詳細については大学院事務課までお問い合わせください。

【高度博物館学教育プログラム】

(文学研究科3専攻から複専修が可能)

「高度博物館学教育プログラム」は、本学が長年培ってきた史学・文学・神道学などの成果をふまえて、専門性の高いカリキュラムによる高度な学芸員の養成を目指しています。プログラム修了者には「國學院ミュージアム・アドミニストレーター」「國學院ミュージアム・キュレーター」という本学独自の上級学芸員の資格を授与します。なお本プログラムは、史学専攻博物館学コースを主軸としながら、文学専攻と神道学・宗教学専攻を加えた計3専攻において、主専攻と併行して履修することが可能な「複専修制度」を導入しています。

【教員専修免許状】

専修免許状とは、第一種普通免許状(学部で取得)を基礎にして、大学院を修了して修士の学位を有し、「教科または教職に関する科目」の所定単位を修得することで取得可能な教員免許状であり、一種免許状の上位の免許状です。近年の教育現場では、教科に関する高度な専門知識や教授法が求められる傾向が高まりつつありますので、大学院での高度な研究を通して得た知見を教育の現場で活かしたい、と考える皆さんにとって必要な免許状と言えるでしょう。

課程認定されている専修免許状の種類および教科

研究科	専攻	免許状の種類および教科	
		中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
文学研究科	神道学・宗教学	社会	公民
	文学	国語	国語
	史学	社会	地理歴史
法学研究科	法律学	社会	公民
経済学研究科	経済学	社会	公民

第一種普通免許状を有している場合

博士後期課程

(標準修業年限3年)

学位授与
博士
12単位以上修得
博士論文提出
最終試験

学修支援

博士前期課程を修了以降
 T・A(ティーチング・アシスタント)……
 R・A(リサーチ・アシスタント)……
 大学院奨学金/国際交流旅費補助
 特別研究生

課程博士学位取得者等

P・D(ポスト・ドクター)研究員……
 特別研究員(研究費・出版助成)
 博士学位論文の出版助成

【特別研究生】

博士前期課程を修了して後期課程への進学準備をする者や、後期課程所定単位を修得のうえ退学して博士学位論文の提出準備をする者について、特別研究生として指導教員のもと研究を継続できます。

【国際交流旅費補助】

海外における国際的な学会等への参加や調査研究の費用(航空運賃・宿泊費など)を助成します。海外で研究発表や調査を行うことで、研究業績を積み上げることが出来ます。

【特別研究員への研究費助成】

若手研究者のグローバル人材養成を目的として、一定の要件を満たす特別研究員(課程博士学位取得者)の研究活動を支援するための研究費(図書費・研究調査費・国際学会旅費など)を助成します。

【刊行物】

課程博士論文出版助成

博士の学位を得た修了生に対し、博士学位論文の出版費用の一部を助成します。

大学院紀要の刊行

年1回刊行される『國學院大學大学院紀要-文学研究科-』『國學院法政論叢』『國學院大學経済学研究』には、在学生等が指導教員の推薦に基づき投稿することができます。掲載された査読付き論文は、本人の研究業績となります。

大学院修了後

研究者・教員ほか

学費/ 奨学金制度



【学費等納付金(令和5年度参考)】 単位:円

出身	博士前期課程		博士後期課程	
	本学	他大学	本学	他大学
文学研究科	719,000	929,000	519,000	929,000
法学研究科	720,000	930,000	520,000	930,000
経済学研究科	719,000	929,000	519,000	929,000
(内入学金)	(100,000)	(200,000)	(100,000)	(200,000)

2年目以降は入学金を除いた金額を納入
 詳細は、入学後に配布する「大学院学生便覧」をご参照ください。
 長期履修制度の利用者には学費が減額されます。

【國學院大學大学院奨学金制度(給付)】

本学独自の奨学金制度です。
 令和2年度から、経済支援型と学業奨励型の奨学金として、新しい奨学金制度が導入されました。

大学院奨学金詳細は本学HPもご参照下さい。

【協定留学及び認定留学奨学金(給付)】

海外の大学へ協定留学又は認定留学を行う大学院生に対し、学業を奨励し、留学期間が2学期間の者には40万円を、1学期間の者には20万円を支給します。

【税理士試験支援奨学金(給付)】

税理士試験に1科目以上合格している経済学研究科の学生に対し、外部セミナー受講料の50%相当(10万円を上限)を、在学期間2回まで給付します。

【日本学生支援機構奨学金(貸与)】

第1種(無利子)
 前期課程:月額50,000円・88,000円から選択
 後期課程:月額80,000円・122,000円から選択
 第2種(有利子)
 月額50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円から選択

このほか経済的な負担を軽減し、学業奨励を目的とした奨学金制度があります。



おも 3つの慮い

異なる2つの概念の調和を目指します

伝統・創造

伝統文化を継承し、そこに学び
未来に向かって新たな価値を
創造してゆきます。

個性・共生

個性を輝かせると同時に、
社会との共生を
大切にしてください。

地域性・国際性

自らの生きる地域に貢献し、
国際社会での
調和を目指します。

研究教育開発推進に関する宣言

國學院大學は、建学の精神である「神道精神」に基づく研究教育を更に創造的に発展させ、

主体性・独自性を保持しつつ、国際社会での協調・共生体制を構築し、

学術研究及び教育を通して日本社会の発展と世界の平和に貢献する。

本学は、「伝統と創造」「個性と共生」「地域性と国際性」の調和を研究教育における基本方針と定め、

日本人としての自覚と教養を身につけ、自立した個性を有し、

より良き日本社会と世界の形成に尽力できる意思と能力を持つ人材を育成することを目標とする。

また、研究教育における成果を広く社会に還元するとともに、研究教育の質的向上を不断に図り、

具体的施策を立案・実施・検証する体制を構築し、その推進に当たることを宣言する。

大学院基本研究教育方針〔大学院憲章〕

【学統の継承・発展と創新】

本学学術資産への理解を基に、学統の継承・発展そして新たな創造を企図する。

【研究倫理確立を通じた人格の陶冶】

研究倫理・法令の遵守・人権の保護を徹底し、それらを基盤とする人格の陶冶に努める。

【研究能力の飽くなき向上】

創新・企画・協調・遂行の資質の涵養によって、国際化に対応する研究能力の向上を図る。

【学知の拡大と連携】

関連領域のない学問は存在しない。よって学知の拡大を企図し、
より高度な専門知識の獲得の上に、多様で柔軟な隣接領域への学知の拡大を推進する。

【研究成果の発信と社会還元】

学習成果の可視化、研究成果の発信を積極的に推進する。

3 博士課程教育実施方針 3つのポリシー

学位授与方針 *diploma policy*

博士前期課程においては、研究科で定める教育課程の単位を修得し、専門的知識を自らのものとするとともに、主体的に研究課題を定め、これに関する諸研究の検討を行い、新たな知見を加えた修士論文あるいは特定の課題についての研究成果を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、その専攻分野を示す修士の学位を授与する。

博士後期課程においては、研究科で定める教育課程の単位を修得するとともに、その分野の研究動向を理解した上で、独自の見解を含む博士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、その分野で継続的な研究が行い得ると認定された者に、その専攻分野を示す博士の学位を授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、かつ口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対しても、その専攻分野を示す博士の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針 *curriculum policy*

大学院の設置目的を実現するために文学、法学、経済学の3研究科を置き、大学院学生が、学知を主体的に選択して、自己の研究に取り組む能力を涵養し、研究指導・方法の多様性と、自己の意志に基づく自由な選択を保証することを方針として教育課程を編成する。この方針に基づいて、全研究科を通じて開講科目を全セメスター化とし、博士前期課程と博士後期課程とを一貫させた教育課程として設ける。また、各研究科ごとに演習、論文指導演習、研究指導、専門講義科目あるいはコースワーク科目、アカデミック・ライティングなどを設置するとともに、複数の教員による指導制を確立する。

入学者受入れ方針 *admission policy*

大学院ならびに各研究科設置の目的と合致する、積極的な目的意識や志向性を有するとともに、研究科での学修ならびに研究に必要な基礎的な知識や能力などを備えていることを受入れ方針としている。また、学士課程(学部)修了者を対象とする一般入学に加え、学士課程(学部)において優秀な成績を修めている者の大学院への飛び入学や推薦入学、さまざまな経験を有する社会人や外国人を対象とする入学選抜など、多様な入学制度を設けることで、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大をはかることを方針としている。





専攻分野 神道学・宗教学
文学
史学

授与学位 修士(神道学)/博士(神道学)/修士(宗教学)/博士(宗教学)
修士(文学)/博士(文学)/修士(民俗学)/博士(民俗学)
修士(歴史学)/博士(歴史学)

人間の営為を深く極める

文学研究科は、日本文化の真髄を理解し、かつ幅広い知識を持つことで、新しい価値観を創造し、人類文化の発展に寄与できる優れた研究者や専門的業務に従事する者の養成を目的としています。

この目的のもとに神道学・宗教学専攻、文学専攻、史学専攻の3専攻を設置し、国内は言うに及ばず国際的にも専門性の高い、充実したカリキュラムを整えています。各専攻とも長い歴史を持ち、図書館や博物館などの豊富な資料も活用しながら教育研究活動を行い、神道、文学、史学の分野に多くの研究者、教育者を輩出しています。さらに、文部科学省が推進する複数の研究プログラムへの採択や、専攻内の新コースの設置、カリキュラム改訂、他の大学院との単位互換、学部生の大学院科目先取り履修制度の導入、入試制度の改革など、特色を活かした教育・研究、学部との連携強化を進めています。

修士、博士とも、修了者には神道学、宗教学、文学、民俗学、歴史学の学位が与えられるのも文学研究科の特色で、今日では課程博士の学位を取得する大学院学生も増えています。

文学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

文学研究科の教育研究上の目的

文学研究科は、日本文化の真髄を理解し、かつ幅広い知識をもち、新しい価値観を創造し人類文化の発展に寄与することができる、優れた研究者及び専門的な業務に従事する者を養成することを目的とする。

神道学・宗教学専攻	文学専攻	史学専攻
日本古来の伝統宗教である神道を中心とする日本の伝統文化に関して、歴史的思想神学的な理解を深め、内外の諸宗教及びそれに関連する宗教文化の意義と役割を比較研究し、幅広い人材を養成すること。	文化・文学・言語に関する高度な研究の深化・発展を図り、その能力を有する研究者、及び豊かな学識と高度な教育能力をもつ教育者を養成し、専門的業務に従事する社会人を再教育すること。	国内外の歴史学・考古学・地理学・博物館学及び美学美術史の幅広い分野に関し研究の深化・発展を図り、各種研究教育機関で研究教育に携わる優れた人材を育成すること、併せて社会人を積極的に受け入れ、幅広い人材を養成すること。

文学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

文学研究科設置目的を実現するために、各専攻において編成されている教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、その専攻分野を示す学位を授与する。

また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、かつ口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して、その専攻分野を示す博士の学位を授与する。

神道学・宗教学専攻
博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている神道学・宗教学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、専攻分野において、自ら研究課題を定め、これに関する先行研究の検討を行い、資料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考で的確な解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、修士(神道学)または修士(宗教学)の学位をそれぞれ授与する。 博士後期課程においては、神道学・宗教学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得
文学専攻
博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている文学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、専攻分野において、自ら研究課題を定め、これに関する先行研究の検討を行い、資料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考で的確な解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、日本文学、日本語学、中国文学、高度国語・日本語教育の各コースにおいては博士(文学)の学位を、伝承文学コースにおいては、博士(文学)または博士(民俗学)の学位をそれぞれ授与する。 博士後期課程においては、文学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するととも

史学専攻

博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている史学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、専攻分野において、自ら研究課題を定め、これに関する先行研究の検討を行い、資料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考で的確な解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、修士(歴史学)の学位を授与する。

博士後期課程においては、史学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験において的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者に、博士(歴史学)の学位を授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して、博士(歴史学)の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

文学研究科設置目的を実現するために、各専攻内に専門分野に基づいたコースを設けることによって、学生の研究に資することを方針としている。

神道学・宗教学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課すとともに、コース横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、複数の指導教員による資料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、複数の指導教員による論文指

導演習を実施する。
博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

文学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課すとともに、日本文学(高度国語教育含む)、日本語学、伝承文学、中国文学、日本語教育の各コースにおいて、横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、各コースごとに複数の指導教員による資料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、各コースごと

に複数の指導教員による論文指導演習を実施する。
博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

史学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課すとともに、コース横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、複数の指導教員による資料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、複数の指導教員による論

文指導演習を実施する。
博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

入学受入れ方針(アドミッション・ポリシー)

文学研究科の設置目的である「日本文化の神髄を理解し、かつ幅広い知識をもち、新しい価値観を創造し人類文化の発展に寄与」したいという目的意識や志向性を有する者を対象とする。

神道学・宗教学専攻

神道学・宗教学専攻においては、その資質として、神道文化をはじめ国内外の宗教文化に関する幅広い知識と具体的な研究課題をもち、かつその学修・研究に必要となる問題発見能力、知識、技能などを備えていることを受入方針としている。
さらに社会人や外国人を対象とした入学選抜制度も設け、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大などをはかることを方針としている。

以上に加え、博士前期課程においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育を修得した者を受け入れる。博士後期課程においては、博士前期課程修了程度の能力を有し、専門領域において独自の研究計画に基づく継続的研究を志向し、それを遂行するに足る能力と技能を備えた者を受け入れる。

文学専攻

文学専攻においては、その資質として、日本文学、日本語学、中国文学、伝承文学、高度国語・日本語教育の各コースに関する幅広い知識と具体的な研究課題をもち、かつその学修・研究に必要となる問題発見能力、知識、技能などを備えている入学受入れられる。
さらに社会人や外国人留学生を対象とした入学選抜制度も設け、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大などをはかることを方針としている。

以上に加え、博士前期課程においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育を修得した者を受け入れる。博士後期課程においては、博士前期課程修了程度の能力を有し、専門領域において独自の研究計画に基づく継続的研究を志向し、それを遂行するに足る能力と技能を備えた者を受け入れる。

史学専攻

史学専攻においては、日本史学および歴史地理学・外国史学・考古学・博物館学・美学美術史の各コースに関する幅広い知識と高い研究意欲ならびに具体的な研究課題をもち、かつその学修・研究に必要となる問題発見能力、知識、技能などを備えている入学受入れられる。
博士前期課程では、学部教育において幅広い教養と基礎的な専門教育を修得し、さらなる専門的研究をおこなう意欲と知識・技能を備えた入学受入れられる。

博士後期課程においては、すぐれた研究論文を提出して修士の学位を修得し、専門領域において独自の研究計画に基づく研究を継続する意欲とそれを遂行するに足る能力と技能を備え、所定の修業年限内に博士論文を提出して博士の学位を得ようとする目的を持った入学受入れられる。また、それと同等の学力と強い研究意欲をもち、博士学位授与に相応しい研究業績を有する者を受け入れる。



「文学」にとどまらない多様な研究を深める

文学研究科には、神道学・宗教学専攻、文学専攻、史学専攻の三つの専攻があります。「文学研究科」と言っても、「文学」しか学べないわけではありません。また文学専攻にしても、日本文学コース、中国文学コース、日本語学コース、伝承文学コース、高度国語・日本語教育コースという五つのコースに分かれていて、「文学」だけにとどまらない多様な学びが用意されています。伝承文学コースでは、いわゆる「文学」だけではなく生活の伝承や、儀礼や芸能なども研究します。中国文学コースでも、中国の民俗や道教の儀礼などの研究もしています。さらに現代日本語の研究や方言の研究、実践的な国語教育や日本語教育の方法など、多様な分野を文学専攻では学ぶことができます。中身を見ずに「文学研究科」とか「文学専攻」という名前だけを見て決めつけるのは、もったいないと思います。

文学を多面的な観点から研究し、また神道学・歴史学・考古学・民俗学・日本語学などと文学とを合わせて学際的に研究するのは、江戸時代の「国学」がもともと持っていた学問の特質です。その学問伝統を引き継ぐ國學院

大學は、昔から学際的な研究を推進してきた先端的な大学でもあるのです。國學院は、「国学」の伝統を受け継ぐ大学だからこそ、広く、かつ深く、人文知を学ぶことができます。たとえあなたがどのような研究テーマを考えていたとしても、國學院の大学院なら、それに合った授業と指導教員に必ず出会えるはず。本気で学びたいあなたの入学を、心よりお待ちしております。



文学研究科 文学専攻 教授 土佐 秀里
Tosa Hidesato

神道学・宗教学専攻

Shinto Studies and Religious Studies

近代の神道史に新たな解釈を提示し、神道に貢献したい

國學院大學 神道文化学部 神道文化学科 卒業 佐藤 教通
文学研究科 神道学・宗教学専攻 在学

学部時代に神社を一から学び、その深い歴史と世界観に好奇心を掻き立てられました。その時に始めた研究をさらに進め、真相に迫っていきたくらい、本学大学院への進学を決意しました。今は、戦前日本で神道研究を行っていたD.C.ホルトムの国家観・宗教観とは何かをテーマに研究をしています。D.C.ホルトムの神道研究は戦時中アメリカで広く受容され、いわゆる「神道指令」の起草者にも影響を与えていたことが明らかになっていますが、ホルトムという人物そのものに主眼を置いた研究はまだ道半ばと言えます。そこに新しい知見を発見し、近代の神道史に新たな解釈を提示できればと考えています。本学大学院は、特に神道学・宗教学において学会

の第一線で研究を行っている教授陣が身近にいらっしゃるの、関心と少しの行動力があれば学者間でホットになっている最新の研究に触れることができます。分野が多岐に渡っている神道学ですがそのほとんどを網羅しており、学会の動向も本学大学院周辺を基準に見ると構造的に理解しやすいという利点があります。今後は、自身の研究を形にすると共に、さらに価値ある研究へと醸成させたいです。ゆくゆくはそうして大成した研究を基礎として周辺研究を充実させると共に、現在神道の世界にある様々な問題に当事者として着手し、少しでも貢献を果たしていけたらと思っています。



Sato Norimichi

本居宣長の著作から近世における祓の思想の一端を明らかに

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業 木村 凧沙
文学研究科 神道学・宗教学専攻 在学



Kimura Nagisa

全国の神社では半年に一度、大祓が斎行されます。その神事に用いられる大祓詞が、如何に註釈・信仰されてきたのかに関心を持ち、大学院進学に至りました。本学大学院では、国学者本居宣長の祓の思想について研究しています。宣長は、『延喜式』巻八「六月晦大祓」に註釈を加えた『大祓詞後釈』を刊行しました。彼の思想は後の国学者にも影響を与え、その訓や注釈は今日の解釈にも用いられています。宣長が中世以降の祓の思想を如何に否定し、新しい解釈を生み出したのか、宣長の祓の思想を切り口に近世における祓の思想の一端を明らかにすることを目指しています。私は文学部日本文学科の卒業生ですが、神職資格を取得する為、学部時代に神道文化学部の課程も

併せて受講しました。他学部の学生であるにもかかわらず、先生方は快く私を受け入れてくださり、神道について基礎から丁寧にご教授くださいました。専攻の垣根を超えて、親身になって手厚くご指導くださる先生方が多くいらっしゃる点が本学の良いところです。神道学は信仰を伴う学問であると思います。学術的な学びだけではなく、実践することに意義があります。私は、先達の学問から志や精神を継承し体現することで、神道の教化や発展に貢献していきたいと思っています。その実現のために、「學問は、たゞ年月長く倦ずおこたらずして、はげみつとむるぞ肝要にて」(『うひ山ぶみ』)という宣長の言葉のように、弛まず日々学問に励んで参ります。

神道学・宗教学専攻 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
武田 秀章	教授/博士(神道学・國學院大學)	神道史、国学史	神道史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	史料から見る近世・近代の神道史
西岡 和彦	教授/博士(神道学・國學院大學)	神道思想史	神道神学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	谷川士清『日本書紀通証』を精読する
笹生 衛	教授/博士(宗教学・國學院大學)	日本考古学、日本宗教史	神道史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	考古学資料と文献史料による古代の神社と祭祀構造復元のための方法論の検討
松本 久史	教授/博士(神道学・國學院大學)	近世・近代の神道史、国学研究	神道古典研究A・B・特殊研究A・B(演習)	平田篤胤『古史成文』を読む
加瀬 直弥	教授/博士(神道学・國學院大學)	神道史	神道史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	神社の歴史と由緒
石井 研士	教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教学、宗教社会学、宗教と情報化	宗教学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	現代日本文化における宗教現象に関する考察
遠藤 潤	教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教学、日本宗教史	宗教学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	宗教学・社会史・思想的視点による日本の宗教・信仰の理解
黒崎 浩行	教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教学、宗教社会学、宗教とメディア	宗教学社会学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	宗教学社会学の調査方法と調査倫理・質的調査を中心に

日本文学コース

Japanese Literature

『万葉集』の時間推移表現から動詞の意義を再検討

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 日本文学コース 在学 稲見 知華

学部時代、演習や卒業論文での調査に取り組む中で先生方からご指導をいただき、文学研究の楽しさに触れました。それをさらに検討していきたいと思い、大学院に進学いたしました。

現在は『万葉集』における時間推移表現を研究しています。集中には時間語彙に動詞が続く類型的な表現形式が散見され、用いられる動詞は交換可能です。到来を表わす場合が大半ですが、同一の表現ではなく動詞を使い分けることは個々の動詞の意味の差異が表れていると考えます。動詞の意義を再検討し、歌中でいかに機能しているかを考察することは、季節や時間をどのように捉えていたのかを把握する端緒となると考えます。

本学の図書館には人文学系の資料が豊富に集められており、必要な資料の多くは本学図書館で確認できます。調査研究に非常に有効です。各研究科の研究室や、若木タワー内の資料室、先生方の研究室にも資料が置かれており、閲覧できます。頻繁に使用される資料は複本され、貴重書の閲覧にはデジタルライブラリーも活用できるなど、研究する環境が整えられています。

今後は『万葉集』の時間推移表現に用いられる動詞の語義や使用傾向についてさらに検討したいです。表現についての研究を軸にしつつ、ひいては古代の時間意識、季節や時間を歌うことの意義を考えていきたいと思えます。



Inami Tomoka

日本文学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
土佐 秀里	教授/博士(文学・國學院大學)	日本上代文学	日本上代文学研究AI・B・特殊研究AI・B(演習)	万葉集の研究
谷口 雅博	教授/博士(文学・國學院大學)	日本上代文学(古事記・日本書紀・風土記)	日本上代文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	『古事記』の文献学的研究
竹内 正彦	教授/博士(文学・國學院大學)	日本中古文学	日本中古文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	源氏物語研究
野中 哲照	教授/博士(文学・早稲田大学)	日本中世文学	日本中世文学研究AI・B・特殊研究AI・B(演習)	物語の動態的重層構造を分析する
岩崎 雅彦	教授/博士(文学・國學院大學)	日本近世文学	日本近世文学研究AI・B・特殊研究AI・B	浄瑠璃の研究
石川 則夫	教授/博士(文学・國學院大學)	日本近現代文学	日本近現代文学研究AI・B・特殊研究AI・B(演習)	昭和期文学の特質を探究する(小林秀雄『本居宣長』考察)

日本語学コース

Japanese Language Studies

動詞述語と形容詞述語に対する格助詞の用い方の差を調査

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 日本語学コース 在学 若松 太郎

学部1年生のときに受講した講義が大学院進学のかきかけとなりました。現代と変わらないと思っていた助詞にも、用法が違うものがあると知ったときには衝撃を受けました。

形容詞や、それに類する助動詞(「まほし」など)が述語になったときに、どの格助詞を用いるのか、ということの研究テーマにしています。例えば、「水を飲む」というように「飲む」という動詞述語に対しては「を」が用いられますが、「水が飲みたい」というように「飲みたい」という形容詞述語に対しては「が」が用いられます。この差が何によるものかを通時的に調査しています。

本学大学院は日本語学に関しては、古代、中世、

近世、現代(方言)のすべての時代にそれぞれ専門の先生がいらっしゃるので幅広く学ぶことができます。また大学院前期課程には、文法、音声、音韻、学史、対照言語学など多くの講義が開講されており、分野を問わず質の高い教育を受けられることが一番の魅力です。

私たちが日々、当たり前で使用している日本語には多くの謎が秘められています。そうした日常に潜む日本語の謎を、ひとつでも多く解明できればと思いつつ、日々の研究に取り組んでいます。



Wakamatsu Taro

日本語学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
小田 勝	教授/博士(文学・國學院大學)	日本語学、中古語文法	令和5年度は国内派遣研究中	
三井はるみ	教授/博士(文学・東北大学)	日本語学、方言学、社会言語学	日本現代語研究A・B・特殊研究A・B(演習)	現代日本語の変異に関する研究
吉田 永弘	教授/博士(文学・國學院大學)	日本語学、日本語文法史	日本古代語研究A・B・特殊研究A・B(演習)	古代語法の研究

中国文学コース

Chinese Literature

台湾南部での道教儀礼研究に、これからも取り組みたい

國學院大學 文学部 中国文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 中国文学コース 在学 富田 綾美

学部卒業後は地元で市役所に就職しましたが、継続して書いていた論文を『國學院大學中國學會報』に掲載していただいたことをきっかけに、本学大学院への進学を決めました。

台湾南部の台南地域で行われる道教儀礼の研究を中心に、この地域の喪葬習俗や、道蔵等の文献に見える道教儀礼の研究を行っています。台南地域では、学部2年生の時に参加したセメスター留学をきっかけに何度も現地調査を行っており、そこで得た資料が卒業論文及び就職後の研究活動に大いに役立ちました。大学院に進学してからは、先生方からご指導いただき、文学作品等、より幅広い分野の研究にも取り組んでいます。

学生の1つの相談に対して10の提案を返してくださるような先生がたくさんいらっしゃるの、日々刺激を受けながら研究を行うことができます。また、授業には学生同士助け合いながら取り組んでおり、困ったときには先輩等に、気軽に相談することができます。

博士前期課程卒業後は復職することになっていますが、働きながらも研究を続けることはできますので、少しずつでも歩みを進め、将来的には博士号取得も目指していきたいと考えています。



Tomita Ayami

中国文学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
石本 道明	教授	中国古典文学	中国文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	戴震『屈原賦注』研究
澤崎 久和	教授	唐代伝奇小説・唐詩・白居易	中国文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	唐代文学の研究
宮内 克浩	教授	中国古典文学	中国文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	漢魏の文学の研究
浅野 春二	教授/博士(文学・國學院大學)	道教儀礼研究	中国文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	中国における招魂文学・招魂儀礼の研究

伝承文学コース

Folklore Studies

学部から引き続き、民俗芸能としての見世物小屋を研究

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 伝承文学コース 在学 川津 寧々

國學院大學大学院の「学知の拡大を推進する」という研究教育方針に魅力を感じ、学部で身に付けた知識を踏まえて、研究を深めたいと考えました。

学部時代に引き続き、見世物小屋について研究しています。卒業論文では、ここ数年の見世物興行を具体的に記し、現在の姿をまとめ、調査や聞き取りをもとに現代の人々が見世物小屋をどのように捉えているのか考察しました。大学院では現在の姿だけでなく、これまでの資料にも目を向けて広い視点を獲得するとともに、民俗芸能として見世物小屋をどう位置付けられるかを検討し、演目の変化や演出の特色を探っていけたらと考えています。

本学大学院には、導入教育科目やコースの教員に

よるオムニバス授業があるため、様々な研究分野から研究法を学んで、知識と視点を広げていくことが可能です。そうした講義を受ける中で指導教員を定めることができ、また複数の教員から論文の指導を受けられるため学びが深まります。教員と学生との距離が近いので、質問や相談がしやすい環境で学べるという点も魅力です。

現在は、学部の科目等履修生として日本語教員課程の修了と学芸員の資格取得を目指しています。これまで得た知識をいかせるような、民俗学に関わる仕事に就けたらと考えています。



Kawatsu Nene

伝承文学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
飯倉 義之	教授/博士(文学・國學院大學)	口承文芸学、民俗学、現代民俗	伝承文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	口承文芸研究の方法を現在の社会や文化を理解する方法として用いる
伊藤 龍平	教授/博士(文学・國學院大學)	近世・近現代の説話	伝承文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	近世の随筆『耳裏』所収説話を読む
大石 泰夫	教授/博士(文学・國學院大學)	民俗学、国文学	伝承芸能研究・特殊研究(演習)	民俗芸能の基礎的研究を学ぶ
			日本伝承文化実習(実習)	民俗調査の基礎を学ぶ
小川 直之	客員教授/博士(民俗学・國學院大學)	民俗学	民俗学特論A・B	折口信夫の文化理論
			伝承文学特論B	日本の民俗文化を学ぶ
服部比呂美	准教授/博士(民俗学・國學院大學)	民俗学	民俗学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	食・子どもをめぐる民俗研究

高度国語・日本語教育コース

Advanced Japanese Language and Japanese Education

エジプトのビジネス日本語教育を推進し、両国の架け橋に

アインシャムス大学 言語学部 日本語学科 卒業
文学研究科 文学専攻 高度国語・日本語教育コース 在学

エルアルフィ・サルマ

日本語専攻があるエジプトの大学において、学ぶことができる日本語は日常生活に必要な範囲のみなので、日本語を必要とする職業に就くと、ビジネスの場における日本語能力が低いことがわかってきます。私は、エジプトのビジネス日本語教育の質を上げるために、國學院大學大学院に進学しようと思いました。

現在私は「エジプトでの日本語教育とビジネス場面で使用される言語のギャップ」について研究しています。日本ではビジネス日本語を外国人に向けてどのように教えているのかを研究し、エジプトでの日本語教育に取り入れたいと思っています。

私が大学院への入学準備をしていた時、外国人と

してわからないことばかりでしたが、大学の方々には優しく、いろいろと協力してくださいました。その上、教授にも私の研究をととても応援していただいています。

卒業後は、日本とエジプトの架け橋になりたいと思っています。日本にはいくつかのとても良い制度や仕組みがあるので、自分の国の発展のために、このような制度などをエジプトに伝えたいと思います。エジプトでの日本語教育の質が上がれば、両国の協力関係も強くなると思います。エジプトでの日本語教育の質を改善し、エジプトで両国の協力プロジェクトを普及していきたいです。



Elalfy Salma

日本史学コース

Japanese History

革新華族を研究し、新しい歴史像を探求したい

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 日本史学コース 在学

鈴木 更緒

学部時代に所属した歴史系サークルで、友人と議論をし、史料を読むうちに、自分でも新しい歴史像を探求したいと思い、大学院へ進学しました。

私の研究テーマは、1920～30年代にかけて宮中や貴族院、大政翼賛会などで活躍した、いわゆる「革新華族」とよばれる人々です。中でも、私は有馬頼寧という人物に注目した研究を進めています。この時期の研究蓄積はたいへん厚いですが、彼らを1つのグループとして捉え、その思想と行動を分析することで、何か新しいものを発見できないかと頑張っています。

私の考える本学大学院の良いところは、豊富な資料が利用できる環境の中で、優れた先生方から

丁寧な論文指導が受けられることです。見たいと思った資料をすぐに確認できるというのは、自分のアイデアを膨らませるのにとっても大切な条件だと思います。私の研究ができる限り良いものになるよう、先生方も力を尽くして下さいます。

理想の将来をいえば、博士後期課程に進みたいと考えています。そのためには、まずは進学に見合った実力をつけるということが目標です。同期や先輩には、自分よりも優れた人がたくさんいます。しかし、私の大学院生活はまだ始まったばかりですから、ここからがスタートだと思って毎日の努力を続けたいと思います。



Suzuki Rio

教科書の採録だけではわからない古典の魅力伝えたい

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 高度国語・日本語教育コース 在学

内山 翔斗

私は現在、公立高校で非常勤講師をしています。学部在籍時から、国語科教員として教育の現場に立ちたいと考えていましたが、実際に携わってみて、大学院で教科の基礎知識をより一層身につけ、国語教育、特に古典について考えたいと思いました。

現在は「高等学校国語科における『源氏物語』の学習指導」をテーマに研究しています。『源氏物語』は高等学校国語科教科書や国語便覧で「世界に誇る日本文学の最高傑作」や「我が国古典の最高傑作」などと説明されていますが、それを正しく示すためには教科書の採録だけでは十分とは言えません。学習者が生涯にわたって古典に親しむことにつながるような魅力的な授業を行うために、教科書調査や

学習指導構想などを考究していきたいです。

本学大学院の魅力は幅広い分野の知識に触れることがまず挙げられますが、特に本コースは、学部で学んだ文学研究の知識を大学院でさらに深めながら研究に活かすことができます。文学研究にかかわる学問を学び、自分の専門性を高められることは、国語科の専門教科としての内容を深めることでもあり、私が国語教育について学び考えていくうえで非常に大切なことです。

修了後は、引き続き学校教育の現場で「教え・教えられる」教育という営みの豊かさを、日々学習者たちと感じながら過ごしていきたいと思っています。



Uchiyama Shoto

歴史を学び、歴史から学ぶことの楽しさと意義を伝えたい

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 日本史学コース 在学

町田 美穂

学芸員として働くには修士以上を出ていないと厳しいという現実と、判断の遅さから周囲より遅れてスタートした自分の研究をより深めたいと考え、大学院への進学を決めました。

私は学部時代から赤穂事件について研究しています。多くの研究がなされ、メディアが発展し意思疎通が寛容となった現代ですら同事件に関して様々な見解があることから、近世の人々にも認識の差があったと考えています。「近世当時から有名だった赤穂事件・忠臣蔵」という無意識の前提を捨てた上でこの事件に対する近世の人々の認識の差を検討することを目標としています。

行き詰まった際に温かな助言を下さり、かつ信頼

出来る諸先生・先輩方の存在、またやる気に満ちた同級生・後輩からの刺激、保有史料、学習・研究環境の質の高さなどを学部生時代から実感していました。特に史学専攻の場合、分野ごとに複数の先生方がいらっしゃるため、多角的な視点からご指導頂けるという環境は大きな魅力だと思います。

大学院卒業後は、研究はもちろん、エデュケーターを兼ねた学芸員になろうと考えています。中高生のころから、周囲の「歴史の勉強はつまらないし役に立たない」という認識にやるせなさを感じていました。歴史を学ぶこと、歴史から学ぶことに楽しさや意味を見い出せるよう、人々の意識を変えていきたいと考えています。



Machida Miho

高度国語・日本語教育コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
齋藤 智哉	教授	教育方法学	国語教育実践研究A・B・特殊研究A・B(演習)	教育方法学の知見をもとに、国語教育に関わる歴史、思想、授業実践等を研究する
高山 実佐	教授	国語教育学	国語教育実践研究A・B・特殊研究A・B(演習)	国語科教育における、学習者・学習材の価値・学習方法等の課題について考究する
諸星美智直	教授/博士(文学・國學院大學)	日本語教育学・日本語教育史・近代日本語・ビジネス文書	日本語教育研究A・B・特殊研究A・B(演習)	日本語教科書の分析とビジネス言語学の研究法を学ぶ
菊地 康人	教授	日本語教育学・日本語学	日本語教育研究A・B・特殊研究A・B(演習)	日本語教育での学習諸項目についての具体的な分析・指導法、日本語教育設計

日本史学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
佐藤 長門	教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本古代史、古代王権・国家の権力構造論	日本古代史研究A・B・特殊研究A・B(演習) 日本史研究A・B(演習)	古記録から読み解く10世紀の古代日本 『日本文徳天皇実録』を読む
高橋 秀樹	教授/博士(史学・学習院大学)	日本中世史	日本中世史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	日記録を読む
矢部健太郎	教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本中世史、戦国・織豊期の政治史・制度史	日本中世史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	中近世移行期の史料と研究方法
根岸 茂夫	客員教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本近世史	日本近世史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	幕末維新期の藩政と史料
吉岡 孝	教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本近世史	日本近世史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	『関東筋御取調書留』を読む
樋口 秀実	教授/博士(歴史学・國學院大學)	中国近代史、日中関係史	日本近現代史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	日本近現代研究及び東アジア近現代史研究の展開
多和田真理子	准教授	日本教育史、地域史	令和5年度は国内派遣研究中	
吉田 敏弘	教授	人文地理学、歴史地理学、地図史	歴史地理学研究A・B・特殊研究A・B(演習) 地図学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	中世農村景観と荘園地図の歴史地理学 16世紀ポルトガル製世界地図・アジア図の研究

外国史学コース

World History

「北朝の宗廟祭祀制度」から中国古代王朝の礼制体系を考察

中南民族大学 外国語学部 日本語学科 卒業
文学研究科 史学専攻 外国史学コース 博士後期課程 在学 **張 雯雯** (チョウ・ブンブン)

私の故郷、中国の内モンゴル自治区フルンボイル市には「嘎仙洞」という洞窟があります。そこは北魏王朝を建立した鮮卑拓跋部の発祥地とされており、洞内の西壁、洞窟の入口から15メートルの所で、北魏太平真君四年の祭祀の祝文が発見されました。これがきっかけで、私は中国古代の皇帝祭祀制度について、深い関心を持つようになりました。

國學院大學大学院は史学の専門性が高く、さらに私の指導教授である江川准教授や金子修一教授(現在は退職)は、主に中国古代から中世の時代をテーマとした様々な研究を行っております。私はこのような専門性の高い先生方のご指導の下で皇帝祭祀について研究したいと思い、國學院大學大学院への入学を決めました。

私の研究テーマは、「北朝の宗廟祭祀制度」です。宗廟

祭祀制度は中国古代王朝の礼制体系の重要な部分です。胡漢融合を特徴とする北朝では、その宗廟祭祀制度はどのように形成され、またどのような特徴があるのか、私は関連史料と関連の研究成果を通して、これらを研究したいと考えています。「魏書」、「北史」などの漢文史料をよく解読し理解を深め、後漢から唐までの制度と比べて、北朝の宗廟祭祀の特徴を明らかにしたいです。

國學院大學大学院には研究に必要な資料が豊富にそろっており、資料の収集に便利です。また、大学院生専用の学生研究室があり、その資料も自由に閲覧することができます。

現在は、博士課程に在籍して研究を続けています。ゆくゆくは故郷に戻って大学の教員になりたいと思っています。



Zhang Wenwen

外国史学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
江川 式部	准教授/博士(史学・明治大学)	中国中世史	東洋史研究A・B(演習)	中国古代-中世の礼制・法制と社会
神長 英輔	教授/博士(学術・東京大学)	ロシア近現代史、東北アジア近現代史	西洋史研究A・B(演習)	ペレストロイカ開始からソ連解体までのソ連における連邦制と民族問題
大久保桂子	教授	イギリス近代史	西洋史研究A・B(演習)	Introduction to Atlantic History

考古学コース

Archaeology

「1級考古調査士」が取得可能

文化財を考古学の観点から正しく評価し伝えたい

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 考古学コース 在学 **竹村 侑祐**

文化財の魅力を正しく発信するために、専門的な考古学を学びたいと思い大学院に進学しました。また、学部時代から携わっている発掘調査に継続して参加し、さらなる学びを得たいという思いもありました。

私は「縄文時代における埋葬と儀礼行為」というテーマで、縄文時代中期の関東の人骨出土資料を中心に、死者のいる場で縄文人が何を行い、その場をどのように取り扱っていたのかということを考古資料に残っている痕跡から研究しています。

本学大学院は各時代の考古学研究を牽引する先生方の講義や、環境考古学や動物考古学といった考古学の各諸分野の第一線で活躍されている先生

方の講義を受けることができ、視野を広げつつ、自身の研究を深められる授業が充実しています。

将来は、自治体の文化財専門職員や博物館学芸員など、地元の文化財の魅力を発信したり、文化財で地元へ活力をもたらせられるような仕事が出来ればと思っています。日本各地にはその地域の足跡を語る様々な文化財があります。こうした文化財を考古学という側面から正しく評価し、伝えていくための知識、技能を大学院で深めていきたいと思っています。



Takemura Yusuke

考古学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
谷口 康浩	教授/博士(歴史学・國學院大學)	先史考古学、縄文文化の研究	先史考古学研究A・B・特殊研究A・B(演習)、考古学特論A(講義)	先史考古学の研究法と実践、考古学の理論と方法の基本的問題
青木 敬	教授/博士(歴史学・國學院大學)	歴史考古学、古墳時代-古代の研究	理論考古学研究A・B(演習)、考古学実習A(実習)	遺跡発掘調査の最新技術を学ぶ-先史考古学分野-
			歴史考古学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	歴史考古学の研究法、京都・官衙出土土器からみた古代
			歴史考古学特論A(講義)、考古学実習B(実習)	古墳研究の現状と課題-各地の調査・研究からみた古墳時代研究の成果と課題-
				遺跡発掘調査の企画・実践と報告書作成-歴史考古学分野-

美学美術史コース

Aesthetics and Art History

J.W.ウォーターハウス作品を当時の文献から紐解く

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 美学美術史コース 博士後期課程 在学 **本美 里紗子**

小さい頃から絵を描いたり美術館に行ったりすることが好きでした。学部時代は別の専攻でしたが、小池寿子先生の授業を受けて西洋美術史に興味を持ちました。

今私は、19世紀後半のイギリスで活動したJ.W.ウォーターハウスという画家の作品の中でも、特に1880年代の悲劇のヒロイン像やユダヤ教と関連のある作品について研究しています。ウォーターハウスは生前の手記やスケッチをほとんど残していないため、調査を進める際は当時の文学や新聞記事、そして画家を取り巻くイギリス画壇の動向を把握し、それらの情報から研究に結びつけることが必要になります。

本学大学院には院生用の研究室があり、そこには展示会の図録や辞典などが豊富に揃っていて研究をする際の設備や資料が充実しています。また自分の研究でわからないところがあっても、先生方が親身になって相談に乗ってくださいます。

今後は学会発表を積極的に行い、博士論文に向けて論文を執筆することが目標です。学部時代から発掘調査に関わるアルバイトをしているので、将来は引き続きその仕事を行うか、もしくは博物館及び美術館の学芸員の職に就きたいと思っています。



Hommi Risako

美学美術史コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
小池 寿子	教授	西洋美術史、死の図像学	美術史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	古代から近・現代芸術の諸相
藤澤 紫	教授/博士(哲学・学習院大学)	日本美術史、日本近世文化史、比較芸術学、浮世絵	令和5年度は国内派遣研究中	

博物館学コース

Museology

地域文化の継承の軸となるような遺跡の活用方法を模索

琉球大学大学院 人文社会科学部 人間科学専攻 歴史学・人類学領域 修士
文学研究科 史学専攻 博物館学コース 博士後期課程 在学 **糸数 栞菜**

学部・修士時代の先生方が國學院大學のご出身だったこと、沖縄学との関わりも深い歴史ある本学で私も学んでみたいという憧れがありました。

私の出身である沖縄には路地裏などに石畳道が残っていたりすることも珍しくありません。生活道として石畳道を利用していくなかで、道路の成り立ちについて興味を持つようになりました。そこで、ものから歴史や文化を学ぶ考古学を専攻し、グスク時代(中世)や琉球王国時代(近世)に築造された道路の構築方法や沖縄の道路の特徴について研究しました。その中で、破壊されゆく道路遺跡を目の当たりにしたことで、遺跡の保存と活用について関心を抱くようになりました。現在は、沖縄の道路遺跡の文化財保護

と文化資源としての活用方法についての研究を進めています。沖縄における文化財保護史を俯瞰し、各地方自治体の発掘調査や史跡整備の成果について、博物館学という視点で総合的な地域研究を行いたいと思っています。地域の特性を理解した上で、地域文化の継承の軸となるような遺跡の在り方や地域にとって効果的な遺跡の活用方法を模索しています。

本学大学院は首都にあるので、常に新しい情報を得ることができます。また、他の研究者との交流の機会も多いので、私自身、多くのチャンスに恵まれる機会が多いと感じています。

将来は、沖縄の発展のために貢献していきたいと思っています。



Itokazu Kanna

博物館学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
内川 隆志	教授	博物館学	資料保存論展示論研究A・B(演習)	博物館資料の保存と展示を考える
			博物館学専門実習A・B・A・B	地域文化資源の保存と活用
青木 豊	客員教授/博士(歴史学・國學院大學)	博物館学	資料保存論展示論研究A・B・特殊研究A・B(演習)	資料の保存と展示を考える



高度な専門知識・専門能力と、 問題解決のための分析力を身につける

法学研究科は、法律学・政治学に関する専門知識を修得するのみならず、みなさんが疑問に感じる問題の所在を分析し、解決の方向や具体的な説明を主体的に提示できる人材の育成を目標としています。法学研究科で指導・教育を担う専任教員は、それぞれの分野で、自らの疑問と格闘し、その解決方法やよりよい説明を提示するために思索を続けてきた研究者であり、その意味でみなさんの先輩でもあります。ですから、みなさんの疑問を正確に受け止め、みなさんと一緒に問題に取り組み、みなさんの問題意識をより深く考えるサポートを行うことができるでしょう。また、高度な専門知識を有する職業人を養成し、修了後の社会人としての活躍を促進するために、実務家教員による科目(公共政策演習・キャリアプランニング)も開講しています。

法学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

法学研究科の教育研究上の目的

法学研究科は、学部教育を基礎とし、法学及び政治学に関する、専門的分析能力を用いて先端的問題を総合的に分析・判断し社会的諸問題の解決に貢献する者、及び専攻分野に関し独創的研究を行い指導する能力をもつ研究者を養うことを目的とする。

法学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

博士前期課程においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育を踏まえ、法学または政治学についての高度な専門知識を十分に自らのものとし、主体的で独自の観点から現代社会における法的・政治的事象を分析する能力を示す成果をあげた者に対し、修士の学位を授与する。

博士後期課程においては、博士前期課程で修得した高度な専門知識と主体的で独自の姿勢に加えて、自らの研究成果を纏めるための研究計画を立案し、着実に実行することができ、かつ、実行のために必要とされる資料収集、読解能力、語学力及び情報処理技術などを身につけ、今後、専攻分野において独創的研究を継続的にを行い、後進を指導する能力を身につけたことを示す成果をあげた者に対し、博士の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

博士前期課程においては、学生が専門知識を修得し、主体的で独自の観点から現代社会における法的・政治的事象を分析する能力を獲得できるように、指導教員が担当する授業科目、研究指導及び論文指導演習を開講する。加えて、関連諸領域における法的・政治的な諸問題についても専門知識を修得できるように、指導教員以外が担当する授業科目を開講する。

博士後期課程においては、学生が専攻分野に関するより高度な専門知識を修得し、より独創的かつ自立的な研究活動に必要な高度な専門的技術を含めた研究能力を獲得できるように、指導教員が担当する授業科目、研究指導及び論文指導演習を開講する。

なお、新たに生起する問題や先進的な研究動向に応じた学修の機会を確保するために、特殊研究(演習)を開講する。

入学者受入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

博士前期課程においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育に基づいて、価値観と利害関係が多様化する現代社会に生起する諸問題を法学または政治学の観点から総合的に分析・判断し、それらの解決に主体的に関わりとうとする積極的な姿勢を持つ者を受け入れる。とりわけ、社会人としての経験を踏まえて具体的な研究課題を見いだしている者を受け入れる。

博士後期課程においては、博士前期課程修了程度の能力を有し、加えて専門領域においてさらなる独自の研究計画に基づき継続的研究を志向し、それを遂行するに足る能力と技能を備えた者を受け入れる。

学部3年生の合格後の選択肢 ~ 飛び入学と先取り履修 ~

学部3年生が「一般入試」「学内成績選考入試」「学内論文選考入試」のいずれかに合格した場合、2つのコースのどちらかを選べます。

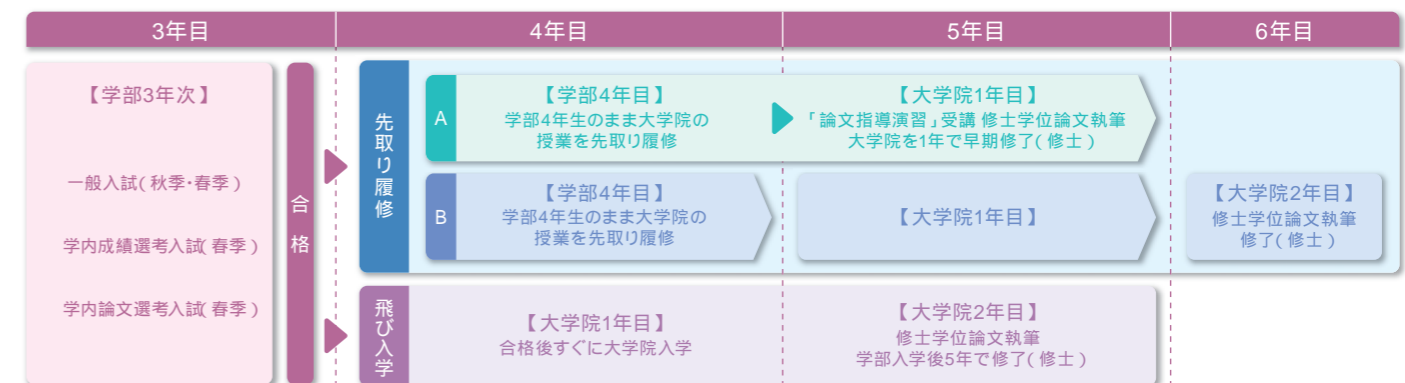
先取り履修

合格後に学部4年生のまま大学院の授業を先取り履修し(10単位まで)、1年後に学部を卒業して大学院に入学。

- A 指導教員と相談の上、修士1年目に残りの修了単位を修得、論文指導演習を受講し修士学位論文(修士論文またはプロジェクト・ペーパー)を提出し合格すれば、1年で早期修了することもできます。
- B 通常の2年間の大学院博士前期課程の教育を受けて修了することもできます。

飛び入学

学部卒業を待たずに合格後すぐに大学院に入学し(飛び入学)、2年間の大学院博士前期課程の教育を受けて、(学部入学から5年間で)修士の学位を取得できます。



教員メッセージ

Message



Takahashi
Nobuyuki

実務に活かせる深い学びを

当然のことですが、「行政法」の知識は公務員試験においても実務においても極めて重要になります。公務員が様々な権限を行使する際の「拠り所」が行政法に他ならないからです。規制権限を行使する際にも、社会保障等の給付行政を担う際にも、行政法を正しく理解して、法令に即した決定をとることが行政の公平性を確保するためにも、市民からの信頼を得るためにも、強く求められています。

「行政法実践研究」の授業では、各種の公務員試験の過去問題をベースにしつつ、関連する法理論や判例を学んでいきます。例えば、一つ一つの判例の背景にある状況や理論を学ぶことは、一見すると効率が悪く思えます。しかし、深く学ぶことはそれだけ記憶に強く残りやすくなるので、結果として成績向上につながります。

また、判例や学説をベースにして、現実の行政が抱えている様々な問題についても取り組んでいきます。特に、解釈論だけでは解決困難な問題については、法律や条例を改正するという立法上の手当も必要になることから、立法論の基礎も学びます。

これらの知識は、公務員試験に合格するためだけでなく、実務に就いてからも役立つでしょう。公務員として自らの能力や知識を最大限発揮できるように、大学院の場で研鑽を積んでもらいたいと思っています。

少し難しく堅苦しい説明になってしまいましたが、実際の授業では、積極的に学ぶ意欲を持続できるように、様々な工夫をほどこしています。皆さんの夢がかなうように、私達教員も励んでいきますので、一緒に頑張りましょう!

法学研究科 法律学専攻 教授 / 行政法実践研究 高橋 信行

國學院大學大学院法学研究科 公務員養成コース

國學院大學大学院法学研究科では、「公務員養成コース」を開設しております。公務員養成コースでは、公務員を志望する学生が夢を実現できるよう、公務員試験に合格し、かつ、就職後も学術的基礎に基づいた活躍ができる人材を養成することを目指します。大学院に在籍して更なるトレーニングを積んで、公務員試験合格を勝ち取りましょう！

公務員養成コースの特徴

公務員養成に特化した講義(「実践研究」科目)を多数開講し、受験や実務に役立つ知識や能力を修得することを目指します。

「公共政策演習」や「キャリア・プランニング」では、現役の公務員や公務員OB・OGを講師として招き、面接試験の模擬実践や実務に向けたトレーニングを行います。

プロジェクト・ペーパーを執筆することで、政策上の課題を分析し、解決策を提案する能力を身に着けます。

学部4年次に「先取り履修」を用いることで、大学院を1年間で修了することもできます。

公務員養成コースのカリキュラム

実践研究科目

従来の「研究」科目(憲法研究・政治学研究等)に加えて、公務員試験の主要科目について「実践研究」科目(憲法実践研究・政治学実践研究等)を開講します。「実践研究」科目では、公務員試験の過去問を素材として、重要な理論・判例・法令を学んだり、答案の執筆方法をトレーニングしたりします。

実践研究科目

憲法実践研究
商法実践研究

行政法実践研究
外国法実践研究

国際法実践研究
政治学実践研究

刑法実践研究
など

民法実践研究

実務家教員による科目

「公共政策演習」では、地方自治体の公務員が講師となり、地方自治体が抱える政策問題を材料に、解決策を検討します。現役の公務員や公務員OB・OGと議論することで、面接試験の対策にもなります。

「キャリア・プランニング」では、公務員OB・OGが講師となり、あるべき公務員像や公務員試験で求められるものについて考えます。公務員としての資質を磨く機会になります。

プロジェクト・ペーパー

修士課程修了の要件として「プロジェクト・ペーパー」を執筆します。指導教員の指導の下で、自己の関心のある政策上の課題に関し、それを解明するために必要な学問分野の学術的知見を踏まえて、政策提言を行うことが目的となります。プロジェクト・ペーパーで特定の政策課題について深く研究することは、実務家としての能力を飛躍的に高めることにつながるでしょう。

公務員養成コース Q & A

Q 学部を卒業した後に公務員を再受験することを考えていますが、公務員養成コースに進学するメリットがあるのでしょうか？

A 再受験で内定を得るためには、しっかりした計画と強い意志が必要になります。本コースでは、教員の指導の下、志を同じくする仲間達と切磋琢磨して学び続けることができます。また、より専門性の高い知識を身に着けて修士号を取ることができます。

Q 公務員予備校とはどのような違いがあるのでしょうか？

A 本コースでは、合格のための受験テクニックの指導に偏るのではなく、試験問題の背景にある理論や判例について学ぶことで、より理解を深めることができます。また、公務員として働き始めた後に必要となる知識や能力を磨くことができます。

修了までのプロセス

【2年修了の場合】

修士1年目

大学院入学(4月)
プロジェクト・ペーパー検討開始
公務員試験受験(1年目)

修士1年目には、実践研究科目を履修して受験対策に励むと同時に、指導教員の指導の下、プロジェクト・ペーパーの検討も始めます。(修士1年目に公務員に内定した場合には、1年修了も可能です。)

修士2年目

公務員試験受験(2年目)
論文指導演習
プロジェクト・ペーパー執筆

修士2年目には、公務員試験を受験しつつ、プロジェクト・ペーパーの完成を目指します。修了単位(30単位)を修得して、プロジェクト・ペーパーが完成すれば、修了となります(修士号授与)。

大学院修了

実践研究科目を履修することで、公務員試験の対策をしながら、修了要件を満たすことができます。

公務員へ

【4年次秋季入試・1年修了
(4年次合格者先取り履修制度)の場合】

学部4年目

秋季試験合格(9月末)
先取り履修(後期・10単位まで)
プロジェクト・ペーパー検討開始

秋季試験合格者は学部4年生後期に大学院の科目を「先取り履修」することができます。先取り履修した科目は「10単位」まで大学院の修了単位として認定されます。また、プロジェクト・ペーパーの検討も始めます。

修士1年目

大学院入学(4月)
公務員試験受験(1年目)
プロジェクト・ペーパー執筆

大学院入学後は、公務員試験受験対策を進めつつ、プロジェクト・ペーパーの完成を目指します。修了単位(30単位)を修得すれば1年間で修了することも可能です。

大学院修了

実践研究科目を履修することで、公務員試験の対策をしながら、修了要件を満たすことができます。

公務員へ

Q 大学院に進学すると、学費等の経済的負担がかかってしまうのが心配です。

A 本学の大学院では、学生の経済的負担を減らすために、各種の奨学金制度を用意しています。また、法学研究科独自の奨学金もありますので、経済的負担を抑えることができます。

Q 3年次入試の制度があると聞いたのですが？

A 学部3年生の時点で大学院への進学を希望する場合には、3年次の春季入試(2月実施)を受験することができます。合格すると、大学院への入学を1年延期して、学部4年生の時に大学院の授業を先取り履修することができます(3年次合格者先取り履修制度)。学部卒業後に大学院に入学してからは、1年間で修了を目指すこともできます(早期修了)。



自らの「答え」を究めよう

IOT (Internet of Things) は私たちの生活にかなり浸透してきていますし、人工知能やロボットの研究や実用化の進展も目覚ましいものがあります。他方、これらは私たちの生活に少なくない変化をもたらすだけに、これらにかかわる法とその研究の重要性は今後いっそう高くなります。「電波法制・医療法制・道路交通法制等々によるこれらの促進と規制はどうあるべきか」、「これらを活用した防災・減災型のまちづくりはどうあるべきか」、「技術革新を進めつつ個人情報保護を貫徹するにはどうすべきか」……etc. 「IOT・人工知能・ロボット等の現代技術に対して法はどのように向き合うべきか(向き合えるか)」という問いへの解答の探求は、まだまだ途上にあります。

法律学の世界では、このようにまだ「解決」されていない「問題」や日々生起しつづけるさまざまな「問題」を「解決」するため、多様なアプローチから自らの「答え」を導き出すことが求められますし、このことこそ法律学の醍醐味であるといえます。

大学院とは学究の場です。そして、大学院での学究と

は、それまでの学問的な積み重ねに基づいて、自らの力で「問題」を発見してこれを「解決」に導けるような「答え」を示すことであるように思います。

とりわけ、法学研究科では、公務員として必要な能力を身に付け、修了後には実際に公務員として活躍することを目標とする方に向けて、令和2年度から新たに公務員養成コースを設置しました。学究の成果として得られた自らの「答え」を公務員の立場で実現することができるよう、一緒に頑張っていきましょう。

法学研究科 法律学専攻 教授 川合 敏樹 Kawai Toshiki

国際裁判判決の執行方法について法的側面からアプローチ

國學院大學 法学部 法律学科 卒業 法学研究科 法律学専攻 修了 ホードクミン

私は、自分が外国人ということもあって学部では国際法を中心に授業を履修しました。その過程で国際裁判判決について興味や疑問を抱くようになり、自分の疑問を明らかにするためには、より専門的な知識を身につけ、思考力や分析力などを磨く必要があると思い、大学院への進学を決めました。

国際法学では一般に「国際裁判判決は法的拘束力があっても強制執行はできない」と指摘されるに留まっていますが、国際社会の中で大きな力を持つ国が判決を無視し続けることで国際秩序が乱れるのではないかと疑問を抱き、研究テーマとしました。国際社会での国際裁判の位置付けと、国際問題に対して、より実効性のある執行方法について、法的側面からアプローチできるのではないかと考えています。

私にとって國學院大學大学院法学研究科のいいところは、少人数であるところです。授業で先生や他の院生の意見を聞く時間や議論する時間がたくさんあり、それによって、自分にはなかった考え方や新しい発見があります。また、幅広い年代の方々がいるので、皆さんの着眼点などが興味深く、とてもいい刺激になりました。

私は大学院で培った法律の専門性と能力、また、ベトナム語と日本語の両方を使えることを活かして、在日ベトナム人や在越日本人がより良い環境で生活し、仕事ができるよう、ベトナムと日本との良好な友好関係の架け橋となって国際社会に貢献したいです。



Ho Duc Minh

研究生活で培ったことは実社会でも役に立ちます

法学研究科 法律学専攻 博士前期課程 修了 株式会社 産業経済新聞社 東京本社 夕刊フジ編集局 報道部 海野 慎介



Unno Shinsuke

学部入学当初より研究者志望でしたが、ご指導いただいた水谷三公先生に政治学の魅力や、政治学を志す者の心得を学び、改めて思いを強くしたことで、國學院大學大学院への進学を決めました。

在学中は、第一に永森誠一先生、藤嶋亮先生の下で比較政治学を専攻し、旧ソ連地域をフィールドに政治体制を研究しました。もう一つは、戦後日本を代表する政治学者、岡義達、京極純一両氏の門下で、その学統を継承されていた永森先生の影響下において、岡、京極両先生の理論を軸に「政治学とは何か」を考察する「政治原論」にも関心を寄せ、深く掘り下げました。

本学大学院は学生の興味のある分野について、

親身にご指導下さる先生が多く、講義内容にかかわらず、一を聞くと十を教えてくださいました。さらに他研究科や他専攻の学生とも交流できるので、「学際的」な研究生活を送ることができ、研究の幅も厚みを増しました。

今は研究者とは別の道に進みましたが、当時学んだ理論は机上の空論ではなく、モノの見方や考え方は実社会でも役に立ちます。今でも休日や空き時間などは読書を中心に政治原論の研究を進めていますが、法学研究科では『法研論叢』という雑誌が発行されており、修了生は寄稿資格があるので、将来は論文を書ければいいともしそかに考えています。

法学研究科 担当教員

Table with 6 columns: 氏名, 職名/学位, 専門分野, 主な講義・演習科目, 講義・演習テーマ. Lists faculty members and their respective fields and courses.



経済・経営・会計・税法...
経済をとり巻く全領域をカバー

経済学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

経済学研究科の教育研究上の目的

経済学研究科は、学部教育を基礎とし、経済及び経済学に関する、専門的知識と能力をもつ職業人、及び豊かな学識と創造的な研究能力をもつ研究者を育成することを目的とする。

経済学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

博士前期課程においては、学部教育における経済と経済学に関する基礎力と日本経済に関する知見を踏まえ、経済学、経営学、会計学または税務に関わる専門分野について十分な学力があると認定された者に対して、修士の学位を授与する。

博士後期課程においては、博士前期課程で求められた最先端の専門的知識に加えて、理論的革新や新しい知見の発見などの独創的研究を行い、今後、専攻分野において研究・教育する能力を身につけたことを示すことができる成果をあげた者に対して、博士の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

博士前期課程においては、指導教員が担当する授業科目および論文指導を通じて、自己の専門領域における専門的知識を学ぶことと並行し、自己の専門領域の関連諸領域について授業科目の履修を通して学ぶこと。さらにアカデミック・コース、キャリア・コースの各コースを選択した者は、当該コースの選択必修科目から所定の単位数の科目を修得すること。

博士後期課程においては、指導教員が担当・指定する授業科目を修得するとともに、指導教員のもとで研究指導を受けること。

入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)

博士前期課程、博士後期課程ともに、本学の建学の精神、そして本研究科が定める学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解して、以下の資質・志向をもった者を受け入れる。

博士前期課程においては、学部教育における経済と経済学に関する基礎力と日本経済に関する知見に基づいて、以下いずれかの志向を持った者を受け入れる。

アカデミック・コースでは、博士後期課程への進学を目指す者や、博士前期課程修了後に専門的で深い学識を必要とする職種を目指す者。

キャリア・コースでは、博士前期課程を修了し、税理士などの資格取得を目指す者。

博士後期課程においては、博士前期課程における経済と経済学に関する専門的知見に基づいて、博士の学位を取得し、課程修了後は研究職を目指す者。

税理士試験税法2科目免除に対応したカリキュラムと指導体制 社会人でも学べる土曜日を中心とした講義で多くの修了生を輩出

修士の学位等取得による研究認定申請が行える講義・指導

税理士試験は、税法3科目と会計学2科目の5科目すべてに合格する必要があります。

しかし、大学院博士前期課程を所定の単位を修得して修了し、その修士の学位等取得に係る研究について国税審議会の認定を受けた場合、税法の2科目に合格したものとみなすとされています。

本研究科は.....

税法に属するカリキュラムを準備

税法に属する科目等の研究論文の作成等に対する指導

土曜日を中心とした講義

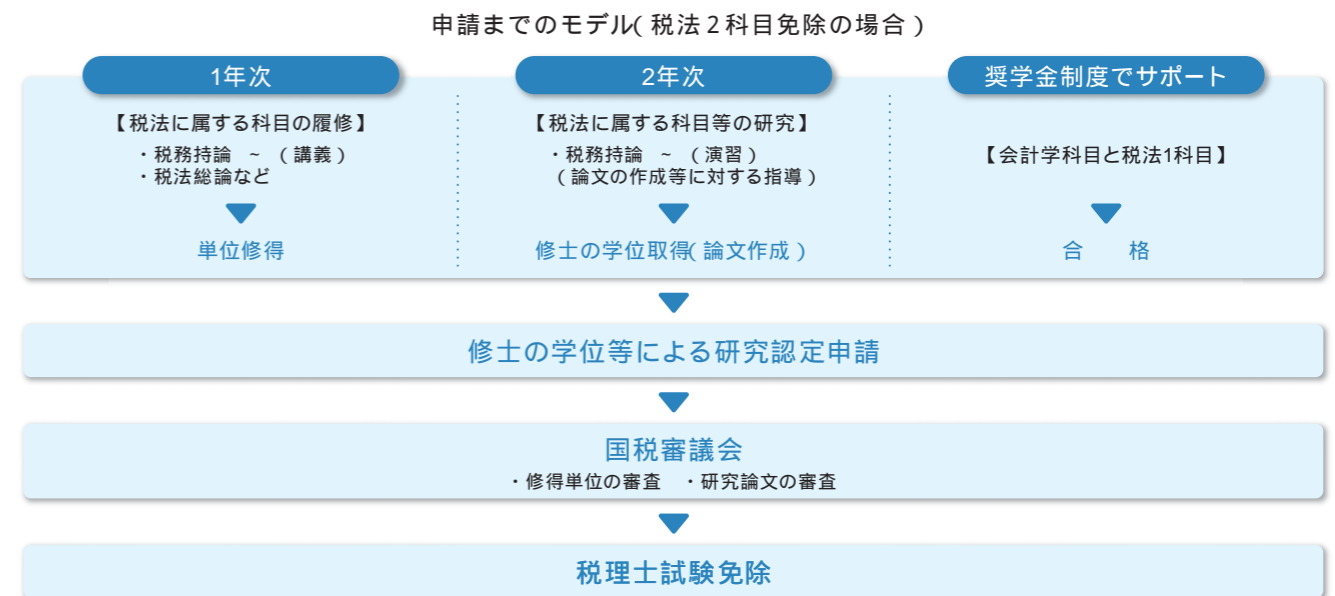
などにより、大学卒業後引き続き勉強される方のほか、社会人の方の学びも支援する体制を整えています。多くの方が「税法2科目免除」を得て、実社会で活躍されています。

充実した奨学金制度を準備

大学院に通いながら、同時に税法科目や会計科目合格のために専門学制度を準備しています。この奨学金は、「國學院大學奨学金制度」や「日本校へ通う学生も多くいます。國學院大學大学院では、このためのサポートと学生支援機構奨学金(P4参照)と併用することもできます。して、一定の要件のもと指定する外部専門学校の受講を支援する奨学金

働きながらも履修等が可能な土曜日を中心とした講義

..... キャリア・コースで「税理士」を目指す



在学生メッセージ

Message



Morishita Momokichi

メディアを活用した新しいマーケティング方法を研究

國學院大学 経済学部 経済学科 卒業
経済学研究科 経済学専攻 在学 **森下 桃吉**

学部時代にゼミで得た学びを社会に活かせるよう、より高度な知識を身につけたいと思い、経済学研究科への進学を決意しました。

私が今研究しているのは「トランスメディア・ストーリーテリング」です。複数の異なるメディアによって展開される一つの世界は、オーディエンスへの深いメディア体験をもたらします。技術の進歩やコンテンツの供給過多によって一つひとつのメディアの力が弱まる中で、メディアのトランスな活用や世界観の構築は、今後より一層、重要度を増していくように思います。

研究テーマの参考になるように、授業をカスタマイズしていただくなど、先生方には懇切丁寧な指導していただきました。また、私の関心領域は社会学

ですが、専門領域ではない先生方からもそれぞれの専門分野からの意見をいただけるので、研究に新しい気づきを得ることができました。

本学大学院での学びを通して、私は物事を深く考え、そして見通す洞察力を獲得できたように思います。日々刻々と変化していく社会の中で、得た学びと専門知識を活かし、より良い社会の実現に向けて行動していければと思います。



税法の基本的理解から裁判例の検討・論文指導まで 職業会計人への仲間入りを國學院から

「税」は我々にとって非常に身近な存在です。所得税、法人税や消費税だけでなく相続税、贈与税など新聞紙上や雑誌などに「税」の情報は溢れています。このことは、「税」が、今日、我々の経済活動のあらゆる局面に影響を与えていることの証左にほかなりません。また、このことは、裏を返せば、会社経営者に限らず、一般の方々であって重要な経済取引を行う場面では、それによって招来するであろう「税」を考慮して意思決定をすることが求められる機会が多くなってきていると理解することができます。

税理士などの職業会計人又はそれを目指す者は、このような「意思決定」をしなければならぬ多くの人に対して、複数の選択肢を提供できるように、税法を正しく理解することはいうまでもありませんが、その他の関係法律や経済取引に係る情報なども収集・整理して、自らの見解をその根拠とともに提示できる重要な責務を担える立場として活躍できる可能性があります。しかも、このよ

うな流れは、経済取引の複雑化、国際化をはじめ会社自体が社会的存在として求められる傾向が一段と高まっていることなども併せて考えると皆さんが活躍できる場は、今後、確実に広がっていくと思われます。

我々は、皆さんが職業会計人として活躍できるための「考える力」を國學院で養えられるように所得税法、法人税法、相続税法や国際課税などの基本的な理解から、これら所得税法等の各論点に係る学説や裁判例等の検討を通じて様々な問題の存在と内容を知る機会も提供します。もちろん、皆さんの一番の関心事である論文についてもテーマ決定から作成・完成まで確実に指導していきます。

経済学研究科 経済学専攻 教授 佐藤 謙一 Sato Kenichi

柔軟性と対応力を備えた税理士を目指し経験を積みたい

明治大学 商学部 商学科 卒業 経済学研究科 経済学専攻 修了 / 税理士法人 所属 濱田 貴世子

私の将来の目標は、顧客のニーズを的確に汲み取り、一人ひとりに寄り添った解決策を提案できる税理士になることです。税務の勉強を進めていく中で税理士試験とは異なる観点からより専門的な知識を習得したいと考え、大学院への進学を希望しました。

大学院では、「租税法における『住所』概念に関する一考察」をテーマに研究を行いました。近年、グローバル化の進展に伴い複数国に跨って活動を行う人が増加しています。今後はそのような人の住所の判定がより複雑かつ困難になることが予想されることから、その明確な判定基準を示すことを目的としてこのテーマを選びました。

本学大学院は、少人数体制で実施されるため、教授と密なコミュニケーションが取りやすく、学生一人ひとりの個性に合わせた細かい指導を受けることができます。私自身、論文執筆で行き詰まった時は不安になりましたが、教授方の親身なご指導のおかげで、最後まで書き上げることができました。また、土曜日に講義が集中しているため、平日は仕事や試験勉強に専念できることも魅力のひとつではないでしょうか。

今後は、習得した知識や思考力を活かして、常に改正される税法に対応するべく日々勉強に励みながら、様々な実務経験を積んでいきたいと思っています。



Hamada Kiyoko



Koyama Yusuke

租税法を論理的・体系的に一から学ぶ

上智大学 法学部 法律学科 卒業 経済学研究科 経済学専攻 在学 小山 雄介

税理士試験の科目免除を得ることはもちろんですが、今までの税理士試験の勉強では得ることできない租税法の勉強を論理的・体系的に学びたいと思いつきました。

「所得税法における給与所得の判断基準(給与所得該当性)の在り方」を研究テーマとしています。働き方の多様化により、所得がどの所得区分に該当するか複雑化しています。給与所得該当性を研究することで、他の所得との比較において、どのような働き方にも対応した給与所得該当性の判断の在り方を明らかにしていきたいと考えています。

租税法を一から体系的に学ぶことが出来るだけでなく、少人数制で、論文指導についてもきめ

細やかな対応をしていただけるのも本学の魅力の一つだと思います。また、多くの先生が国税職員OBということもあり、実務家目線だけでなく、行政側での法律の見方や考え方を学べることは、税理士として実務家となった際に非常に有用な経験になると感じています。

税理士として企業に貢献していくことはもちろんですが、さらに多くの企業の成長をサポートできる体制を構築するため、大学院で学んだマインドを多くの後輩税理士に伝え、同じ志を持ったメンバーによって構成される税理士法人を自身で経営することが将来の目標です。

経済学研究科 担当教員

Table with 5 columns: 氏名, 職名/学位, 専門分野, 主な講義・演習科目, 講義・演習テーマ. Lists various faculty members and their courses.

講義・演習科目は変更になる場合もあります。

入学定員と収容定員

研究科名	専攻名	前期課程		後期課程		総収容定員
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
文学研究科	神道学・宗教学専攻	20	40	4	12	52
	文学専攻	30	60	10	30	90
	史学専攻	40	80	10	30	110
	計	90	180	24	72	252
法学研究科	法学専攻	10	20	5	15	35
経済学研究科	経済学専攻	10	20	5	15	35
合計		110	220	34	102	322

キャリアサポート

大学院修了後の進路として、教員や専門職以外にも、一般企業への就職活動を行う人も多くいます。キャリアサポート課では、企業セミナーや学内企業説明会等を開催する一方、就職活動の悩み全般から模擬面接等の実践対策まで幅広くアドバイスしています。一般企業では、大学院の修了予定者も「新卒」として扱われますので、学部学生と同様にキャリアサポート課を活用することをお勧めします。



就活スタートガイド
4月
本格的な就職活動の開始に向けて、効率的な動き方のアドバイスに加え、就職情報サイトの登録などを行います。

模擬面接指導会
2月
大手企業の人事担当者を迎え、本番に近い環境で個人・集団面接の実践的トレーニングを行います。

企業セミナー
9～10月
期間中ほぼ毎日、各業界を代表し、個別説明会では予約が取りにくい超大手優良企業の採用担当者が、業界および企業の説明を行います。

合同企業説明会
1～2月
本学の学生を採用する意欲の高い企業の担当者とお話する機会が、1日で多くの企業と出会うことができます。

研究環境

本学では、大学院と研究開発推進機構が連携して、特色ある研究の充実と研究成果の発信を行っています。大学院学生も共同研究プロジェクトに参画するなど研究の現場に携わる機会を創り出し、高度な研究能力の向上を図っており、これまでに多くの若手研究者を輩出しています。

令和5年度 研究開発推進機構 事業一覧

機関	研究代表者	研究課題
日本文化研究所	平藤 喜久子	宗教文化に関する研究と学術情報発信の体制構築
学術資料センター	内川 隆志	学術資料センター(考古学資料館部門)事業
	笹生 衛	学術資料センター(神道資料館部門)事業
校史・学術資産研究センター	松本 久史	校史・学術資産研究センター事業
研究開発推進センター	松本 久史	研究開発推進センター研究事業「神道・日本文化の先端的研究」
		「SDGs と建学の精神」研究事業
	谷口 雅博	國學院大學「古典文化学」の創出研究事業
國學院大學博物館	笹生 衛	國學院大學博物館事業

令和4年度「國學院大學特別推進研究助成金」採択課題一覧

No.	研究代表者	(職位・所属)	研究課題名
1	橋元 秀一	教授 経	非正規労働者の社会的雇用安定化と労働組合による労働者供給事業の役割強化の研究
2	石井 研士	教授 神	加速化する社会と宗教の未来に関する研究
3	池田 榮史	教授 研	水中文化遺産の新たな保存処理手法の開発
4	小林 裕和	教授 観	地域を拠点とする旅行サービス企業による価値共創と事業創造プロセスの理論化

令和5年度 大学院特定課題研究

No.	研究代表者	(職位)	研究課題
1	飯倉 義之	教授	民俗芸能の現状と継承・展開・資源化 - 昭和後期から平成、令和への変遷を中心として -
2	西岡 和彦	教授	神社所蔵漢文文献の発掘・解読・評価

令和4年度 科学研究費助成事業採択者一覧

職位は令和4年度当時のもの。

No.	事業区分	研究科目	研究代表者(職位・所属)	研究課題番号	研究課題名
1	補助金	基礎研究(S)	谷口 康浩 教授 文	21H04983	半定住狩猟採集民の社会組織と葬制:骨考古学先端技術との連携による先史社会の復元
2	補助金	基礎研究(A)	寺本 貴啓 教授 人	19H00624	小学校におけるCBTを活用したテストモデルの開発と能力測定の有効性に関する研究
3	補助金	基礎研究(B)	根岸 茂夫 名誉教授 文	20H01315	戦前期東京における住宅開発と生活空間の変容 - 東京都渋谷区を事例に -
4	補助金	基礎研究(B)	浅野 春二 教授 文	20H01184	道教の比較研究から見るヤオ族儀礼文献学の構築
5	補助金	基礎研究(B)	多和田 真理子 准教授 文	17H02671	小学校区・中学校区を単位とする地域社会の文化構築過程に関する歴史的研究
6	補助金	基礎研究(B)	上神 貴佳 教授 法	22H00808	ヨーロッパとアジアの比較による政党レジリエンス論の再検討
7	補助金	基礎研究(B)	平藤 喜久子 教授 神	18H00615	日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究
8	補助金	基礎研究(B)	松本 久史 教授 神	20H01189	近世中期復古神道形成過程の史料的研究
9	補助金	基礎研究(B)	石本 東生 教授 観	20H04439	EUによる域内観光振興に関わる資金支援政策の研究 - ギリシャを事例に -
10	補助金	基礎研究(B)	十代田 朗 教授 観	20H02328	観光振興を考慮した都市の持続的発展を表現する概念モデルの構築
11	補助金	基礎研究(B)	西村 幸夫 教授 観	22H01667	歴史文化遺産の保存と活用に資するイコモス「遺産影響評価」の拡張と実装に関する研究
12	基金	基礎研究(C)	久野 マリ子 名誉教授 文	19K00651	首都圏方言の古層の記述とその全国若年層への広がりに関する研究
13	基金	基礎研究(C)	諸星 美智直 教授 文	19K00630	福祉言語史の基礎資料としての近代日本語点字資料の調査と整備
14	基金	基礎研究(C)	藤澤 紫 教授 文	18K00169	浮世絵にみる文明開化 - 子ども文化の変遷と教育ツールとしての玩具絵 -
15	基金	基礎研究(C)	齋藤 智哉 教授 文	19K02457	明治期から昭和初期の学校教育における「修養」と「教養」に関する基礎的研究
16	基金	基礎研究(C)	藤野 寛 教授 文	19K00041	アドルノの歴史哲学 - 美学との関係において
17	基金	基礎研究(C)	水口 学 教授 文	20K00616	言語の諸特性を生み出す最適な派生計算:節構造と主語を中心とした理論的・実証的研究
18	基金	基礎研究(C)	新藤 透 教授 文	20K12561	近代日本の国民国家形成期における図書館の役割
19	基金	基礎研究(C)	深谷 優子 教授 文	20K03356	協同的な推敲活動におけるピアの匿名性および識別性の効果に関する教育心理学的研究
20	基金	基礎研究(C)	内川 隆志 教授 文	21K01002	人文資料形成史における博物館学的研究 - 根岸有山・武香旧蔵資料の研究と公開
21	基金	基礎研究(C)	木原 志乃 教授 文	21K00095	古代ギリシア医学思想における病いの語り - エビデミアをめぐる環境と倫理の問題
22	基金	基礎研究(C)	金杉 武司 教授 文	22K00017	多面的多元論の可能性 - 存在論的・反主観主義の体系的理論の構築と擁護
23	基金	基礎研究(C)	岩橋 清美 准教授 文	17K03085	江戸証家集の古器物収集に見る歴史意識の特質とネットワークに関する研究
24	基金	基礎研究(C)	進藤 久乃 准教授 文	17K02610	第二次大戦後フランス文学における前衛的諸問題
25	基金	基礎研究(C)	山崎 雅穂 准教授 文	19K00999	新出・善薩半跏像および金石文の分析による古代日本・朝鮮の弥勒信仰の研究
26	基金	基礎研究(C)	牧野 裕子 准教授 文	20K00373	謝氷心・呉文藻の1950年代 - 70年代私的日記から見る思想改造教育の影響
27	基金	基礎研究(C)	藤嶋 亮 教授 法	19K01453	欧州「周辺」における第一次大戦の衝撃と政治変動 - パルカンとイペリアの比較から
28	基金	基礎研究(C)	甘利 航司 教授 法	20K01355	RF型及びGPS型電子監視を使用した、ストーカー被害者の保護システムの構築
29	基金	基礎研究(C)	稲垣 浩 教授 法	20K01453	QCAとネットワーク分析を利用した環境変動が人事運用に与える影響の研究
30	基金	基礎研究(C)	川村 尚子 専任講師 法	21K01226	オンラインプラットフォーム取引における消費者の信頼の確保
31	基金	基礎研究(C)	金子 良太 教授 経	19K02021	政府・非営利組織のインセンティブ志向の財務報告モデルの構築
32	基金	基礎研究(C)	田原 裕子 教授 経	18K01151	渋谷再開発を契機とした新しい都市的コミュニティの創造に関する研究
33	基金	基礎研究(C)	細谷 圭 教授 経	21K01507	COVID-19等の経済的ネガティブイベントと時間選好率との関係性の探究
34	基金	基礎研究(C)	林 貴一郎 教授 文	21K01341	大豆イソフラボン代謝産物エクオールが運動による動脈硬化改善効果に及ぼす影響
35	基金	基礎研究(C)	藤田 大誠 教授 人	21K11367	日本の奉納競技の近代的展開に関する研究 - 神社・皇室とスポーツ文化との関係 -
36	基金	基礎研究(C)	野澤 純子 教授 人	21K02716	保育における障害の可能性のある外国人幼児の早期把握と支援に関する研究
37	基金	基礎研究(C)	夏秋 英房 教授 人	17K01912	地域教育・保育支援プラットフォームの構築過程の研究
38	基金	基礎研究(C)	千野 謙太郎 教授 人	18K10880	筋の活動・活動様式を考慮した呼吸筋のウォーミングアップ・トレーニングに関する研究
39	基金	基礎研究(C)	長田 恵理 准教授 人	19K00770	小学校外国語教育において児童の自立学習を促す指導モデルの開発
40	基金	基礎研究(C)	柳生 崇志 准教授 人	20K02722	幼児教育・保育の無償化は沖縄の子育て環境・教育の貧困化対策として機能するか?
41	基金	基礎研究(C)	神事 努 准教授 人	22K11478	投球フォームの個人特性を考慮した上限投球数決定法の開発
42	基金	基礎研究(C)	青木 康太郎 准教授 人	22K11684	自然体験活動におけるリスクマネジメントモデルの構築に関する研究
43	基金	基礎研究(C)	青木 康太郎 准教授 人	17K01639	自然体験活動における事故や傷害、ヒヤリハットの発生要因と安全対策に関する研究
44	基金	基礎研究(C)	下村 彰男 教授 観	21K05661	神社の立地等に見るエリアマネジメント拠点のあり方に関する研究
45	基金	基礎研究(C)	井門 隆夫 教授 観	21K12457	小規模宿泊業における資本のあり方に関する研究
46	基金	基礎研究(C)	堀木 美告 教授 観	22K12621	新しい観光形態としてのオンラインツアーの課題と可能性に関する研究
47	基金	基礎研究(C)	金 今善 准教授 観	22K01931	韓国ソウル市における住民主体のまちづくりの展開とローカル・ガバナンスに関する研究
48	基金	基礎研究(C)	星野 靖二 教授 研	19K00086	近代日本における「世界の諸宗教」像の展開に関する基礎的研究
49	基金	若手研究(B)	川田 裕樹 准教授 人	17K13251	肥満小児と保護者の協調行動を重視した生活習慣改善支援プログラムの検討と開発
50	基金	若手研究	小手川 正二郎 准教授 文	19K12931	レヴィナスの性差・家族の現象学
51	基金	若手研究	手塚 雄太 准教授 文	18K12506	近現代日本における「個人後援会」の基礎的研究
52	基金	若手研究	安田 恵美 准教授 法	20K13354	ハルネラブルな刑務所出所者等の「社会参加」促進に向けた施策に関する研究
53	基金	若手研究	尾田 基 教授 経	19K13806	社会的逸脱行動がイノベーションに及ぼす影響
54	基金	若手研究	櫻井 潤 准教授 経	19K13981	地域の医療ニーズに即した医療扶助システムの構築に向けた医療保障政策の実証的研究
55	基金	若手研究	安達 有祐 助教 経	22K13395	動的離散選択モデルを用いた土地の高度利用の最適な制限の分析
56	基金	若手研究	小林 唯 助教 人	19K20046	アスリートのための客観的コンディショニング評価システムの構築
57	基金	若手研究	町田 樹 助教 人	21K12872	ダンスとスポーツの領域横断的研究:芸術的スポーツの史的記述と批評理論の構築
58	基金	若手研究	清水 香 助手 人	22K17677	呼吸筋活動の増加にともなう呼吸筋血流量の年代差および性差の解明
59	基金	若手研究	河 昴珍 准教授 観	18K12921	戦後PRの歴史的変容に関する研究:言説と表象の比較的分析を通じて
60	基金	若手研究	松本 貴文 准教授 観	18K12938	新たな「複業体制」の構築を通じた集落再生
61	基金	若手研究	石山 千代 准教授 観	20K14897	地域外主体の受入れと施策連携による廃校活用計画論の構築に関する研究
62	基金	若手研究	潘 夢斐 助教 観	21K12903	アートネットワーク形成における「場所」の役割:不忍池と杭州西湖の事例から
63	基金	若手研究	児玉 千絵 専任講師 観	21K14322	公共施設と交通結節点の変遷に着目した都市ストックのライフサイクルの解明
64	基金	若手研究	加納 なおみ 教授 教	18K12423	海外日本語補習授業校におけるリテラシー能力強化をめざす新たな日本語教育プログラム
65	基金	研究活動スタート支援	柏木 亨介 助教 神	20K22041	国家神道の社会事業的性格の研究 - 感染症対策事業における神界の役割と活動 -
66	基金	研究活動スタート支援	前田 妻穂 助教 人	22K20282	「教員不足」期における民間企業採用早期化の影響に関する実証的研究
67	基金	研究活動スタート支援	椎原 晶子 教授 観	21K20464	歴史文化資源保全と防災対策を両立する地域まちづくりに関する研究
68	基金	研究活動スタート支援	石山 千代 准教授 観	19K23548	町並み保全地域における自主規範の実態把握及び調整システム構築・運用指針の作成
69	基金	研究活動スタート支援	高 和雄 准教授 観	21K20195	孫ターン者の移住決定プロセスにおける幼少期の現地体験に関する研究
70	基金	研究活動スタート支援	児玉 千絵 専任講師 観	19K23554	非集計的なアプローチの都市形成史に基づくストックマネジメントとその超長期的効果
71	基金	研究活動スタート支援	黒本 剛史 助手 観	22K20464	町並み保全地域で地方自治体が取得した歴史的建造物の整備プロセスと利活用方策の解明
72	基金	研究活動スタート支援	川嶋 麗華 助教 研	22K20078	現代における「捨骨」の重視と全国的な普及過程に関する研究
73	補助金	特別研究員奨励費	勝谷 祐子 CPD研究員 文研	21J00071	ヨーロッパ中世末期の壁画研究
74	補助金	特別研究員奨励費	高橋 亮一 DCI研究員 文研	19J20636	明治期北方海域における日本の海洋進出と拡大に関する研究
75	基金	国際共同研究強化(A)	安田 恵美 准教授 法	19KK0312	刑務所出所者等の主体的な社会参加とそれを促進するための支援に関する日仏比較研究
76	基金	国際共同研究強化(B)	西村 幸夫 教授 観	21KK0077	ネパール・ルンビニ地域に広がる古代王国遺跡の保存活用に関わる地域計画立案

140余年に亘り連綿と続く國學院大學の歴史

- 明治15年 (1882) ■ 國學院大學の母体「皇典講究所」創立。初代総裁は有栖川宮徳仁(たかひと)親王。場所は東京・麹町区飯田町(現・千代田区飯田橋)。9月1日、授業開始。11月4日、開校式。
- 明治23年 (1890) ■ 7月、「皇典講究所」を母体として、国史・国文・国法を攻究する教育機関「國學院」が誕生(本科3年・研究科2年)。「國學院」の名前が歴史に初めて登場する。
- 明治37年 (1904) ■ 4月、専門学校令により専門学校に昇格。「私立國學院」となる(学部予科2年・本科3年)。
- 明治39年 (1906) ■ 6月、文部省告示により「私立國學院大學」と改称、大学組織となる。
- 明治42年 (1909) ■ 明治33年から始まった神職講習会を改め、神職養成部(神職教習科・神職講習科・祭式講習科)を開設。
- 大正9年 (1920) ■ 4月15日、大学令により大学に昇格。大正9年に認可された大学は、本学の他に、慶應義塾・早稲田・明治・中央・日本・法政・同志社の7大学。
- 大正12年 (1923) ■ 学生数も増え、大規模な学園拡充計画を5年前から進め、5月には渋谷御料地(現在地)に新校舎が完成。6月、授業を開始。以後、昭和10年代にかけて本学は発展の一途をたどる。
- 昭和10年 (1935) ■ 大講堂が竣工。
- 昭和21年 (1946) ■ 「皇典講究所」を解散し「財団法人國學院大學」を設立。他大学に先んじて男女共学制を採用。
- 昭和23年 (1948) ■ 新制文学部第一部(宗教学科・文学科・史学科・哲学科)を開設。
- 昭和24年 (1949) ■ 文学部第二部(文学科・史学科)、政治学部第一部を開設。
- 昭和25年 (1950) ■ 政治学部第一部を政経学部第一部(政治学科・経済学科)に改める。
- 昭和26年 (1951) ■ 「学校法人國學院大學」となる。政経学部第二部を開設。大学院日本文学専攻・神道学専攻修士課程を開設。
- 昭和27年 (1952) ■ 大学院日本史学専攻修士課程を開設。「考古学資料室」を開設(昭和30年の文部省告示で博物館相当施設に指定される)。
- 昭和28年 (1953) ■ 大学院日本文学専攻・日本史学専攻修士課程を開設。
- 昭和30年 (1955) ■ 「國學院大學幼稚園教員養成所」を設立。「日本文化研究所」を創設。
- 昭和31年 (1956) ■ 文学部第一部宗教学科を神道学科へ改称。
- 昭和33年 (1958) ■ 神道学専攻科(高等神職養成課程)、大学院神道学専攻修士課程を開設。
- 昭和37年 (1962) ■ 神奈川運動場を開設、体育関係授業を開始。
- 昭和38年 (1963) ■ 創立80周年を記念して法学部第一部を開設。「神道学資料室」を開設。
- 昭和40年 (1965) ■ 法学部第二部を開設。「折口博士記念古代研究所」を設立。その後、「武田博士記念室」(昭和41年)、「河野博士記念室」(昭和45年)を開設。
- 昭和41年 (1966) ■ 政経学部を経済学部第一部・第二部に改める。



皇典講究所飯田町校舎 (明治末期)



渋谷校舎 (大正時代)



渋谷校舎全景 (昭和10年代)



武田祐吉博士の授業風景 (昭和32年)

- 昭和42年 (1967) ■ 大学院法学研究科修士課程・文学部博士課程、第二部神道学科を開設。
- 昭和43年 (1968) ■ 大学院経済学研究科修士課程を開設(昭和45年に博士課程を開設)。
- 昭和50年 (1975) ■ 「考古学資料室」を「考古学資料館」と改称。
- 昭和57年 (1982) ■ 11月4日、高松宮宣仁親王殿下台臨のもと創立100周年記念式典を挙行。北海道滝川市に「國學院女子短期大学」を新設。
- 昭和59年 (1984) ■ 100周年記念館が竣工。神奈川運動場に新石川校舎を建設。
- 昭和60年 (1985) ■ 新石川校舎(現「横浜たまプラーザキャンパス」)完成、授業を開始。
- 平成3年 (1991) ■ 「國學院女子短期大学」を、男女共学化により「國學院短期大学」に改称。
- 平成4年 (1992) ■ 横浜たまプラーザキャンパスで、第一部全学部1・2年生全員を対象に授業を開始。
- 平成8年 (1996) ■ 文学部第一部に文学科を日本文学科・中国文学科・外国語文化学科に改め、経済学部第一部に経済学科・経済ネットワーク学科、同第二部に産業消費情報学科を開設。
- 平成13年 (2001) ■ 法学部と経済学部がフレックス開講制に移行。
- 平成14年 (2002) ■ 11月4日、三笠宮宣仁親王殿下台臨のもと創立120周年記念式典を挙行。神道文化学部を開設(フレックス開講制)。21世紀COEプログラムに「神道と日本文化の学際的研究発信の拠点形成」が採択される。
- 平成15年 (2003) ■ 2月、120周年記念1号館が竣工。
- 平成16年 (2004) ■ 120周年記念2号館が竣工。
- 平成17年 (2005) ■ 経済学部経営学科を開設。経済学部および中国文学科・外国語文化学科・哲学科は7時限制に、日本文学科と史学科がフレックス開講制に移行。
- 平成18年 (2006) ■ 5月、若木タワー(地上18階、地下1階)が竣工。
- 平成19年 (2007) ■ 創立125周年。4月、「研究開発推進機構」が発足。「モノと心に学ぶ伝統の智恵と実践」研究事業がORC整備事業に選定(至平成23年)。
- 平成20年 (2008) ■ 3月、学術メディアセンター棟(地上6階、地下2階)が竣工。4月、法学部が7時限制に移行。
- 平成21年 (2009) ■ 4月、横浜たまプラーザキャンパスに人間開発学部を開設。「教育開発推進機構」が発足。「國學院短期大学」を「國學院大學北海道短期大学部」に改称。9月、3号館が竣工。
- 平成23年 (2011) ■ 日本文学科が7時限制に移行。
- 平成24年 (2012) ■ 教職センターが発足。11月4日、創立130周年記念式典を挙行。
- 平成25年 (2013) ■ 人間開発学部子ども支援学科を開設。史学科が7時限制に移行。
- 平成27年 (2015) ■ 4月、130周年記念5号館(地上3階)が竣工。
- 平成28年 (2016) ■ 文部科学省私立大学研究ブランディング事業に「古事記学の推進拠点形成—世界と次世代に語り継ぐ『古事記』の先端的な研究・教育・発信—」が採択(至令和2年度)。
- 平成29年 (2017) ■ 創立135周年。大学院文学研究科と埼玉県埋蔵文化財調査事業団がインターンシップ・プログラムに関する協定を締結。
- 平成31年 (2019) ■ 3月、総合学修館(6号館、地上2階、地下2階)が竣工。
- 令和4年 (2022) ■ 創立140周年。4月、横浜たまプラーザキャンパスに観光まちづくり学部を開設。

進学相談会 / 資料申し込み方法

大学院進学相談会

文学研究科・法学研究科・経済学研究科の専任教員が入試説明を行うほか、専攻コースの内容に関する相談に応じます。
毎年、この相談会に参加して大学院進学を決意したという学生が多数います。皆さん、奮ってご参加ください。



※詳細はホームページでご確認ください。 <https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/graduate/p1-1-1-2>

大学院 学生募集要項・過去問題 申し込み方法

配送の申し込み daigakuin-j@kokugakuin.ac.jp

ご希望の研究科名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・ご請求の資料名(例:「学生募集要項」「過去問題(過去3年間)」など)を明記の上、メールでお申し込みください。



※詳細はホームページでご確認ください。 <https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/graduate/p1-1-1-4-2>

窓口での受け取り(渋谷キャンパス)

直接、大学院事務課で頒布しますので、窓口にお越しください。

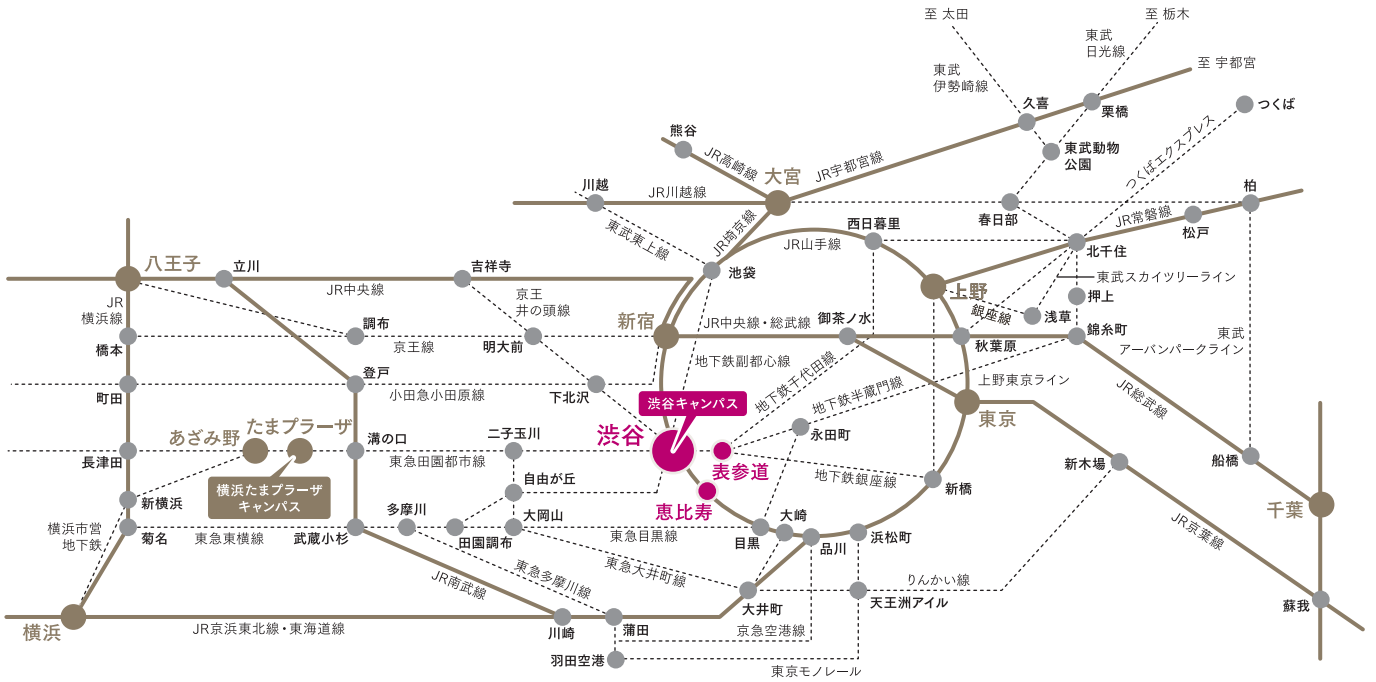
個人情報の取り扱いについて

※保有期間は当該年度末まで

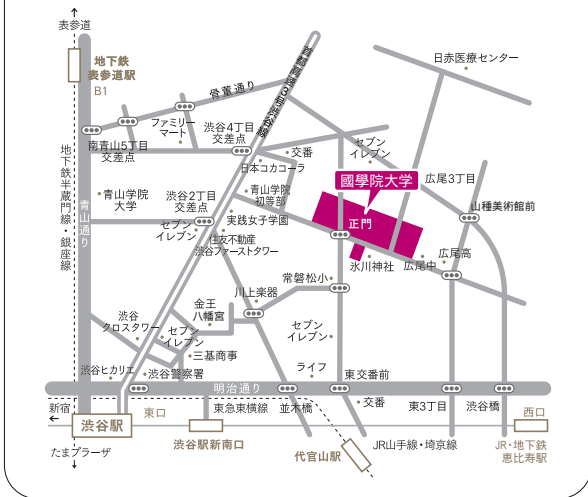
國學院大學では、「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努めています。資料申込の際に提出された個人情報は、資料送付のため以外には使用しません(この利用目的の範囲を超えて使用すること、本人の同意を得ずに第三者に提供することはありません)。



交通案内



渋谷キャンパス周辺地図



渋谷キャンパス

渋谷駅からのアクセス

渋谷駅(JR山手線・地下鉄・京王井の頭線・東急各線)……………徒歩約13分
 渋谷駅(JR埼京線・湘南新宿ライン)新南口……………徒歩約10分
 都営バス(渋谷駅東口バスターミナル54番のりば 学03日赤医療センター前行)
 ……………「国学院大学前」下車
 (運賃180円・IC178円)【渋谷駅から3番目の停留所、所要時間約10分】

表参道駅からのアクセス

表参道駅(地下鉄半蔵門線・銀座線・千代田線)B1出口……………徒歩約15分

恵比寿駅からのアクセス

恵比寿駅(JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン・地下鉄日比谷線)……………徒歩約15分
 都営バス(恵比寿駅西口ロータリー1番のりば 学06日赤医療センター前行)
 ……………「東四丁目」下車
 (運賃180円・IC178円)【恵比寿駅から3番目の停留所、所要時間約10分】

国学院大学大学院

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28
 TEL: 03-5466-0142
 E-mail: daigakuin-j@kokugakuin.ac.jp
<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate>

